

チアリーダーがモチベーションと パフォーマンスを維持できる要素

早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
健康スポーツマネジメントコース
5023A307 奥山若菜
研究指導教員：中村好男

目次

第一章 緒言	1
第一節 チアリーダーとは.....	1
第二節 Xリーグにおけるチアリーダーの現状	1
第二項 Xリーグでのパフォーマンス環境.....	3
第三項 チアスピリットの潜在的な認識とチアリーダーの魅力.....	3
第四項 本研究における用語の定義.....	3
第三節 参与観察からみえるパフォーマンス離脱の罪悪感.....	4
第一項 月経への問題意識.....	4
第二項 暑熱環境	5
第三項 罪悪感の契機と認識	5
第二章 研究目的	6
第一項 問題の所在.....	6
第二項 研究の目的.....	6
第三項 研究の意義.....	6
第三章 方法	7
第一節 研究対象	7
第二節 集めるデータ	7
第一項 参与観察	7
第二項 インタビュー調査.....	7
第三項 実際のパフォーマンス.....	8
第四項 先行研究と理論の検討.....	8
第三節 分析方法	8
第四節 倫理的配慮.....	8
第四章 結果	9
第一節 他リーグでの選抜制を用いたパフォーマンス	9
第一項 選抜制パフォーマンスの実際.....	9
第二項 語りと姿勢からみえるモチベーション	9
第二節 勤務都合による環境の変化	10
第三節 チアリーダーの潜在的な認識	16
第一項 全員参加の心理的重圧.....	16
第二項 理想のチアリーダー像.....	19
第四節 試合中に起こる体調不良と欠員	22
第一項 月経や熱中症による試合中の離脱	22
第二項 メンバーが欠けたままのパフォーマンス	25

第五節	セミファイナルハーフタイムショーでの代役.....	25
第一項	妊娠したチアリーダーの代役を務めるまでの経緯と意思.....	26
第二項	代役を務めた実際のパフォーマンス.....	28
第六節	直前に唯一の役割をもつメンバーの欠場決定からの対処.....	28
第一項	対応の実際.....	28
第二項	幹部の考える優先順位.....	29
第七節	DREAM BOWL2023 の実際.....	29
第一項	パフォーマンスの実際.....	29
第二項	DREAM BOWL でのパフォーマンスをレギュラーシーズンに活かす利点	
	30	
第五章	考察.....	31
第一節	「全員出演」が前提であることのモチベーション.....	31
第二節	選抜制でのパフォーマンス.....	31
第三節	罪悪感を生み出す認識.....	32
第四節	離脱しても戻れる場所.....	32
第五節	欠員が出てもパフォーマンスは成立する.....	32
第六節	チアリーダーが認識する「美しさ」.....	33
第七節	交代制導入における仮説.....	34
第六章	結論.....	35
参考資料	36
謝辞	37

第一章 緒言

第一節 チアリーダーとは

日本では2000年を境にチアリーダー人口は急激に増加し、今や競技レベルは世界トップレベルに値している。チアリーダーの活躍の場として、競技の他にも元来の目的であるスポーツ応援があり、各スポーツのトップリーグでは興行目的に留まらず、試合応援に華を添えている。

チアリーダーにも様々な種類があるが明確な定義はなく、ここではそれぞれの競技団体のルールや投稿を基に、ここでは大きく分けて3つに分けて整理する¹。

1. チアリーディング

チアリーディングは複数人で構成されたチームで2分30秒の演技を行い、演技の難易度や完成度の点数で競い合う表現スポーツです。特徴的なのはスタンツという、人を乗せたり飛ばしたりする技術で、上に乗る「トップ」、土台の「ベース」、司令塔の「スポット」という3つのポジションに分かれており、信頼関係が重要な競技である。また、演技途中では「コール」という掛け声のみで演技を行う部分がある。

2. チアダンス

チアダンスはチアリーディングと同様、表現スポーツで、演技の難易度や完成度で競い合います。ただし、チアダンスはその名の通り、ダンスで勝負をします。ターンやいろいろな形のジャンプを演技に取り入れ、チアダンスの中でもダンスの種類によって部門が分かれており、ボンダンス、ジャズダンス、ファンク/ヒップホップに加え、横並び一列になり全員でキックを行うラインダンスもチアダンスならではの特徴である。

3. 応援チア

一般的に「チアリーダー」と呼ばれるものだが、総称にもなり得るため、ここでは「応援チア」とする。応援チアの一番の仕事は応援をリードし、試合の局面にあった応援方法で、応援の力を最大限に高めて選手にエールを送り、スポーツのエンターテインメント性をさらに高めることである。パフォーマンスはチアリーディングをしたり、ダンスを踊ったり様々である。アメリカのプロアメリカンフットボールリーグ（以下、NFL）では、チアリーダーは「12番目の選手達」とされる、アメフトになくてはならない存在として認識されている。

第二節 Xリーグにおけるチアリーダーの現状

チーム専属チアリーダーの契約とルール

Xリーグに所属する実業団チームは3チームにとどまり、多くはスポンサー企業・地域のサポートを受けて社会人クラブチームとして活動している。チアリーダーは個人契約ではなく、アメフトのチームに所属する形あるいはチームとして契約を結んでおり、報酬なども個人ではなくチーム団体に支払われる事が基本である。チアリーダーはチームに「登録」という形で属している。

各チームのトライアウトの応募条件（表1）²には、年齢の下限、試合・練習・イベント等全てのチーム活動に参加できる事、チア（ダンス）経験、他スポーツ団体に属さない事が挙げられている。

¹ 参考：GK-SPORTS 私たちの専門競技。チアリーディング？チアダンス？チアリーダーの種類と応援チアの魅力に迫る！。2021

² 2023シーズンの各チームのトライアウトより筆者が作成

	年齢	活動参加頻度	経験	その他
H	20歳以上健康な方	試合、練習、イベント等全てのチーム活動に参加できる方	チアダンス・ダンス(ジャンルは問いません)経験者	
I	満20歳以上の方	すべての練習、試合に参加できる方	ダンスの経験がある方(ジャンル不問)	地域貢献活動や各種イベントに積極的に参加できる方
J	18歳以上の女性	原則すべての試合、月2回のディレクターレッスン、練習、イベント等のチーム活動に責任を持って参加できる方	ダンス経験者の方(ジャンル不問)	
K	20歳以上の社会人である	全ての活動(試合・練習等)に参加可能	チア・ダンス経験が浅い方も	チア、ダンス、アメフト、クリチア、応援活動に興味がある
L	20歳以上	Lチームの全試合と練習・MTGへの参加可能な方	チアリーディング、ダンスなどの経験1年以上(ジャンルは問いません)ある方	
M	20歳以上の社会人	全ての試合、各種イベント、練習に原則毎回参加できる方		他スポーツ団体に属さない方
N	大学生・社会人の女性・男性	試合・練習に参加できる方		
O	満18歳以上の健康な社会人(学生は応相談)	原則全ての試合(主に土日祝開催)およびイベントに参加ができること	原則全ての公式練習への参加ができること(冠婚葬祭・仕事は応相談)	チーム理念・チアスピリット、及び諸条件にご理解・ご賛同いただけること 社会人としてのモラルを持ち、自らの行動に責任を持てる方であること
P	20歳以上の女性で、Pチーム応援に興味があり、向上心を持って活動できる方 *トライアウト時には、年齢確認を行ないます。	春季・秋季シーズン中、試合・練習に参加できる方(春:3・4月=練習/5・6月=試合及び練習、7・8月=練習/8月末~試合及び練習)	2年以上のチアリーディング(スタンツ)経験がある方 *他のメリーグチームチアに所属実績のある方はご応募いただけません。	Xリーグ等のイベント参加・媒体露出が可能な方 *スポンサー企業以外の飲料メーカー関係者の方にはご参加いただけません。

表1 X1SUPER専属チアリーダートライアウト要件(2023シーズン)

第二項 Xリーグでのパフォーマンス環境

XリーグのルールはアメリカのNFLと異なり、1Qあたり12分の試合時間となっており、1試合にかかる時間は2時間～2時間30分である。アメフトの特徴として、1プレーあたり10秒前後で試合が中断される。これがアメフトでのチアリーダー文化が発展した要因の一つとも言え、チアリーダーは常にサイドラインに立ち続けながらもプレーを遮らないタイミングで応援をリードしていく。

これはつまり、試合時間の殆どはサイドラインで過ごすことが強いられ、前半と後半にそれぞれ50分程度、どんな状況においても立ち続け、演技を行うことになる。女性で構成されることが殆どであるチアリーダーには、サイドラインに立っている間は試合展開を見ながら水分補給する時間も含めてチアリーダーとしてのパフォーマンスが求められる。また、ハーフタイムは15分あるが、そのうち3分程度はハーフタイムショーのパフォーマンスがあり、その前後には化粧直しを含めた後半のパフォーマンスに向けた準備が必要であり、実質の休憩時間は殆どないと言える。(表2) また、多くの場合では屋外環境でフィールドも広く、会場によってはトイレ・更衣室がサイドラインから遠いことも少なくない。15分で設定されているハーフタイムの真ん中でパフォーマンスを行えば、トイレに行く事や更衣を行うのも困難であるが、それを想定してXリーグのチアリーダーは最後まで安定したパフォーマンスを行う準備をしている。屋内競技の応援やイベント・コンペティション目的のチアリーダーと比べると長時間出演することは喜びともいえるが、このような環境下で身体的・心理的に誰が見ても元気を与える存在で在り続けることは容易ではない。

第三項 チアスピリットの潜在的な認識とチアリーダーの魅力

そもそもチアリーダーの魅力は何なのか。チアリーダーの世界には、応援・競技共にチアスピリットという共通ワードを語られる機会があるが、チアスピリットには明確な定義は示されていないが、日本チアダンス協会(JCDA)ではチアスピリットを「常に笑顔で人を応援し元気づける」³と提示している。

チアリーダーは名前の通り、応援をリードする存在であり、この要素と筆者の間でも認識のズレは感じないが、これを基に各チアリーダーがチアリーダーとしてどう在るべきなのか、どんなロールモデルがいるのかはそれぞれの解釈となる。自身の認識やロールモデルからの大幅な逸脱は、チアリーダーとして相応しい状態ではないと考えるチアリーダーもいることは予想できる。次節では、そう言った「在るべき状態からの逸脱」からみえるチアリーダーの苦について述べる。

第四項 本研究における用語の定義

本研究における用語の定義を以下に示す。

チアリーダー：個人を指す言葉として用いられるケースはあるが、ここではチーム・組織としての意味

メンバー：チアリーダー個人を指す

モチベーション：チアリーダーとしてのやる気

パフォーマンス：チアリーダーが演ずる演目。Xリーグの場合、オープニングパフォーマンス、応援練習、花道、サイドラインパフォーマンス、ハーフタイムパフォーマンス、お見送りなどを指す

³ 日本チアダンス協会公式HP. <https://jcda.jp/aboutus/aboutus/>

開始	主な動き
10:45	川崎駅集合、会場へ移動
11:00	控室で準備
11:55	パフォーマンス確認・衣装チェック
12:00	アップエリアに移動、各自ウォーミングアップ
13:00	グラウンド IN、準備開始（機材準備 ⁴ 、フォーメーション確認）
13:15	サイドラインでオープニングパフォーマンス、応援練習
13:18	手具、飲料設置
13:20	逆サイドのゴールポスト下に移動開始（約 90yrd の移動）
13:23	花道（選手入場）パフォーマンス開始
13:30	コイントス、KICK OFF
14:30 頃	フィールド 50yrd 付近へ移動、ハーフタイムショー（入退場含め 3 分前後）
15:40 頃	試合終了、集合写真撮影 お見送り ⁵ 、片付けに分かれて移動
16:00 頃	控室移動
16:40 頃	ミーティング後、現地解散

表 2 試合当日の S チーム現役チアリーダーのタイムテーブル例（富士通川崎スタジアム 13:30 キックオフ）

第三節 参与観察からみえるパフォーマンス離脱の罪悪感

第一項 月経への問題意識

2023 年現在、X1 に所属するチアリーダーは関西に所属する 1 チーム以外は全員 20~30 代の女性であり、本的には月経がある。個人差はあるものの、4 週に 1 回の頻度で月経があるのであれば、試合でもその対応を強いられることになる。しかし、月経についての苦は個人差が大きい上に、他者とその苦しみを共有することは少なく、チアリーダーも例外ではない。

女性競技者のストレスの一つに月経が挙げられる（煙山・尼崎、2013）。月経時の不快感や月経痛、試合時に月経が重なることなどのストレスによって、不機嫌や怒り、抑うつといったストレス反応に影響するとされる。また、月経痛や月経期の体調の変化と月経に対するイメージや認識である月経観は相互に影響し合っており、月経観は性格特性などの要因が影響を与えると報告されている（野田、2003）。さらに「女性アスリートのためのコンディショニングブック」では、心理面として月経の不安の有無を競技者に調査し、約 4 割が何かしらの不安を抱いていると報告されている（日本スポーツ振興センターほか、2013）。どのような不安を持っているかは報告されていないが、不安のある女性競技者がどのような対応を行っているか調査した結果、「対応がわからない」「気にしないようにする」などといった理由で対応していないと回答した者も存在することが報告されている。

⁴ 多くのチームで音響機材等のセッティングは業者に委託しているが、S チームではチアリーダーと OG でセッティングを行うため、準備時間の確保が必要である。

⁵ 試合後、出口付近にチアリーダーが立ち、来場者に挨拶をする。他スポーツリーグの応援チアリーダーでも行われている。

Sチームでは、試合の内外に関わらず、月経について話題になることがある。女性だけの環境という事もあるが、一人が話せば「自分も…」と会話に自ら混じってくる状況を何度か目の当たりにしている筆者にとっては、人間関係が良好な環境であると共に、それぞれが何かしら月経に関して苦痛を経験している事が垣間見えた。SチームのOGでありスタッフのDは現役時代に「まあ10人も（メンバーが）いたら誰かしら生理だよ」と話していたことがある。月の5~7日出血があれば、確率的にもこの発言は妥当だろう。メンバーが入れ替わってもこうして月経の話題が尽きないのは、前提として良好な人間関係を保ったチームと言ってもいいかもしれない。

第二項 暑熱環境

Xリーグでは春シーズン（PEARL BOWL、GREEN BOWL トーナメント）が4月~6月、秋シーズン（RICE BOWL トーナメント）が8月末~12月にある。特に秋シーズンの前半は最高気温が35°C前後の炎天下の中行われることが少なくない。Xリーグに所属するチアリーダーは約50分間、直射日光を浴びながら帽子の着用もなく、ブーツ等を着用してパフォーマンスを行うため、選手とは違った身体的なストレスがあることは容易に想像できるだろう。それでもチアリーダーはパフォーマンスの機会があることをモチベーションに、セルフマネジメントを試行錯誤しながら試合に臨むのが現状である。

しかし、もちろんセルフマネジメントだけでは対応するのは非常に困難である。1項で述べたように、チアリーダーには月経をはじめとした体調の変化は起こり得る。実際にSチームでは2023年8月26日、9月17日の試合において、チーム全員で一時的にパフォーマンスを中断した事がある。コーチやキャプテンの指示のもと中断に至ったわけだが、この判断に反対するものはおらず、メンバーはその時間を体力のリカバリーや身体の冷却などに使い、ハーフタイムと後半戦のパフォーマンスに備えていた。筆者自身もこの場にいたが、フィールドは鉄板のように感じ、ブーツの靴底が異常に熱く、1ヶ所に立ち続ける事が困難な程であったことを記憶している。

第三項 罪悪感の契機と認識

第2項で示したパフォーマンスの中断前に、メンバーのAが先に離脱した。その際、Aは離脱することに強い抵抗はあったものの、ハーフタイムでのパフォーマンスを優先させようと判断して離脱した（4章に後述）。筆者自身もルーキーの時に一時的に離脱した経験があるが、「罪悪感」はあった。自分が抜けてもパフォーマンスは継続できることは想像できたが、それを想定しているわけではなく、絞られるパフォーマンスが出てくるので、試合の状況を確認しながら離脱した。結果的には私の離脱に気づいていないメンバーもいたが、やはり離脱時はパフォーマンスの質をできるだけ落とさない「タイミング」を考える。

Xリーグでもチアリーダーの体調不良は問題視されており、熱中症で倒れたチアリーダーが救急車で運ばれたことを契機に「チアリーダーが試合中に体調不良になるとXリーグ全体で問題視され、『チアリーダーの有無』を問われる可能性がある」という運営からの通達や認識が実際にある。これは体調不良時に心理的重圧となり、どう離脱するかを悩ます一つの契機となっていると考える。パフォーマンスから離脱する行動が、チームでのパフォーマンスの制限の他に、観客だけでなく運営側への負の印象を与え兼ねない。このチームの損失につながるという認識は、現在のX1チアのパフォーマンス環境下においては体調不良であってもチームの為に立ち続けるべきなのかという判断を一人で行う状況を生み出している。

第二章 研究目的

第一項 問題の所在

チアリーダーにも体調不良や予期せぬ怪我で出演が困難となる状況は想定でき、実際にパフォーマンスから一時的に離脱することがあるが、その際にチアリーダーがネガティブな感情をもち、離脱することが必要だと感じて行動に移しづらい認識をもっている。その認識は、チアリーダーにとって、元気に、健康的にパフォーマンスを行う上での障壁となる。

第二項 研究の目的

厳しい環境下や出演困難なメンバーがあっても、チアリーダーがモチベーションとパフォーマンスを維持できる要素を明らかにする。

第三項 研究の意義

チアリーダーに関する研究は、アメフトやチアリーダーが発祥のアメリカでの論文をみても、殆どが身体的損傷、怪我に対する論文が殆どである。競技とは違った、チアリーダーというスポーツマンシップや社会的あるいは心理的概念に関する研究は圧倒的に少ない。チアリーダーにも欠員が想定しうる事を踏まえて、欠員が出た際もパフォーマンスの質を落とさない在り方を探る事で罪悪感を感じることなくセルフマネジメントとしてパフォーマンスを離脱でき、試合を通して、チームの最大限のパフォーマンスを維持するために必要な要素が明らかになる。それによってチアリーダー自身が試合を通してよりポジティブに応援をリードしていく事ができる。

第三章 方法

第一節 研究対象

2023 シーズンに、筆者を含む X リーグに所属する S チームのチアリーダー10 名と OG スタッフ 2 名

第二節 集めるデータ

第一項 参与観察

筆者は、S チームに所属する 3 年目のチアリーダーである。ルーキーイヤーの 2021 年からの S チーム内での事象を振り返り、S チームをはじめとする X リーグチアリーダーにおける認識や、筆者が感じる独特の事象や文化を参与観察の視点で追憶した。

第二項 インタビュー調査

2023 年 11 月 19 日に X リーグに所属する S チームのチアリーダー 4 名と OG 1 名 (A~E) に会話形式でインタビューを行った。それぞれに行ったインタビューの内容は表 1 の通りである。A~E には 2023 年 11 月 19 日に、F、G は 2024 年 1 月 6・7 日に個別で対話形式に聴取した。

	属性	筆者との関係	インタビュー内容
A	3 年目 応援チアは S チームが初めて	同期メンバー	8 月 27 日の試合で一時的に離脱した時に考えていた事を教えてください 離脱した時に考えていた事を教えてください
B	1 年目 他リーグ応援チア経験者	後輩メンバー	9 月 17 日の試合で一時的に離脱した時に考えていた事を教えてください 離脱した時に考えていた事を教えてください 前所属チームでの活動の様子と、その時に何か感じていた事を教えてください
C	2 年目 他 X リーグチア経験者	後輩・幹部	2022 年の遠征試合で一時的に離脱した時に考えていた事を教えてください 離脱した時に考えていた事を教えてください 2021 年のセミファイナルの時に代役を引き受けた経緯と、何を思ったのかを教えてください 他のメンバーがサイドラインから抜けた時に何か考えた事がありますか
D	S チーム OG スタッフ S チームで 5 年	先輩・元幹部	2021 シーズンにボイスリーダーが欠席した試合の対応と、その時に感じたことを教えてください チームとして、そもそも欠員が想定されることはありますか
E	7 年目 応援チアは S チームが初めて	先輩・幹部	上記同様
F	5 年目 他 X リーグチア経験者	先輩・元幹部	他のメンバーがサイドラインから抜けた時に何か考えたことはありますか
G	1 年目 他 X リーグチア経験者 (試合出場経験はなし)	後輩メンバー	他のメンバーがサイドラインから抜けた時に何か考えたことはありますか 2024 年の RICE BOWL のパフォーマンスに参加できない事が決まった時、どんな事を考えましたか 以前所属していたチームでの活動では、どんな事を考えながら活動していましたか

表 3 インタビュー内容と筆者の関係

インタビューにより、1) チアリーダーが全員出演できることによる高いモチベーションと2) メンバーが出演困難となり欠員があってもパフォーマンスを維持できる、という2つの要素がある事を見出した。本研究ではこの二つの要素について事例を用いて考察する。

第三項 実際のパフォーマンス

全員が出場しない状態でのパフォーマンスの実際を示し、それが行えた要因を検証し、第一項のインタビューの逐語録からそのパフォーマンスを実現する上でのチアリーダーの潜在的な認識を明らかにする。

第四項 先行研究と理論の検討

それぞれの事例を考察する上で、先行研究と理論を用いて分析を行う。

第三節 分析方法

筆者はSチームに所属する3年目チアリーダーであり、メンバーの一員として中立的な立場で活動している。本研究ではこの立場から参与観察から得られた動画データ・情報を基に、対話で語られる言葉や仕草を逐語録として記録した。

逐語録をSCAT法とM-GTA法により重要な語句と概念の抽出を行い、概念の関係を図式化する。

第四節 倫理的配慮

本研究へのインタビュー参加は自由意志での参加であり、参加しない場合でも不利益を受けないこと、参加後もいつでも撤回でき、その場合にも不利益を受けないことを保障する。

第四章 結果

ここでは1)モチベーションと2)パフォーマンスの2つの視点から順に述べていく。
まずは1)チアリーダーのモチベーションの視点から述べる。

第一節 他リーグでの選抜制を用いたパフォーマンス

第一項 選抜制パフォーマンスの実際

Bが所属していたFリーグのEチームは、本番当日のリハーサル約4時間前くらいに集合する。そこで全てのポジションも完璧にできている前提で、リハーサルで練習するのはフォーメーションが中心である。基本的に前日や当日の練習にメンバーやフォーメーションが決まる。トライアウトの時点でそういった能力を判断したり、受験者にも説明をしている。Bは「そのレベルについてこれる人じゃないと選ばれない。結構しんどい。」と話す。

第二項 語りと姿勢からみえるモチベーション

筆者「前のチームでは選抜だったと思うけど、どんな練習をしてたか教えてほしい。」

B「自分でスタジオ取って練習したり、なんか結構、ファッション系のダンスだったので、そのファッションを出すためにその見せ方はすごい練習しました。正確さもだけど。各自で練習してって感じで全部の振りを覚えたりとかして、そのポジションとかやっぱ毎回違って、一応自分の元々の練習してるのを練習して、でも選ばれたらできる前提でそのポジションなっちゃうので、そこは何か覚えてはないですけど、ちょっと教えて私ができるくらい。」

筆者「チアリーダーの立場から、その体制はどう思った？」

B「え、めっちゃしんどかったです。練習しても絶対選ばれるとは限らないですし、私結局試合自体は去年13回くらいあったんですけど、（選ばれたのは）3回だけでしかもその2回が集客試合で全員出る日だったんですけど、それ以外は全部毎回落ちてたので、入るのもなんか嫌なんです。途中からできる人の中に入っちゃうんですけど、他の人は毎回出てるのですぐ順応できるんですけど、いつも外で見てる中で急に選ばれても、何かできなくて、めちゃくちゃ切れられる。」

筆者「結局選ばれても嬉しいけど…みたいな？」

B「もうどっちも最後は、出ても出なくてもそうなんだって。前日メンバーが決まる日もありました。ディレクターが全然その前の練習に納得しないと、当日朝、早く来て仕上がってる人選ぶみたいな」

筆者「全員出られるという点ではここ（Xリーグ）は魅力的？」

B「ああ！もうすごい魅力的。全然ここと違う。そうなんです。やっぱり練習するんだったら出たいし見てもらいたいの。本当にやり損でした。結局練習したって上手くなったなって選ばれても怒られるし。」

BはEチームに1シーズン在籍したが、Sチームのトライアウト前にも個人でSチームの練習の見学を問い合わせるなどの行動があり、Sチームで2シーズン目も継続していく意思を示している。選抜制は当日の欠員があっても対応できる体制ではあるが、モチベーションの維持が難しいケースがあるのは事実である。欠員が考慮されたパフォーマンスでも、チアリーダーは「全員が参加できる」というのはチアリーダーのモチベーションの1つとなりうる可能性があるが、選抜制には「全員参加」を前提としない形式であるため、交代要員はあ

っても、チアリーダーの魅力の一つである「全員参加」が叶わない環境であり、チアリーダー自身のモチベーション維持に大きな課題が残る。

第二節 勤務都合による環境の変化

Xリーグは3つの実業団チーム以外は社会人クラブチームで構成され、その収入源は各チームの登録料が主な収入源となっている。スポンサーの企業や自治体も付きづらいのが現状であり、チアリーダーもプロ野球やBリーグのような個人契約ではなく、チームへの登録という形をとっているのが大半である。どのリーグでも言えることだが、チアリーダーだけで生計をたてることは無理に等しく、チアリーダーは普段、本職あるいは学業の傍らでチアリーダーをしている。ここでは、Sチームで11月に転職したGについてのエピソードを語りのなかから述べる。

Sチームにルーキーとして所属となったGは、11月にキャビンアテンダント（以下、CA）への転職が決まった。当初はセミファイナルでのXリーグチアリーダーズによるパフォーマンスが予定されていた為、Gも研修期間と重なり出演を確定させていたが、リーグの都合で日程が翌2024年1月3日のRICE BOWLへ変更となり、Gは欠場を余儀なくされ、涙した。

第1節でも述べたように、Xリーグチアリーダーが集結するパフォーマンスの際には「リハーサルと本番に必ず出席できること」が条件とされている。一見、自由参加のような表現であるが、実際は契約している「アメフトチームの名前を背負っている」とチアリーダーは認識しており、総勢100人を超える人数でフォーメーションやスタントを構成する。X1に所属しているチアリーダーは基本的には全員参加であり、参加で登録した人数を途中変更することはタブーとされているのが現状である。2024年に関してはリーグ側の都合での日程変更や令和6年能登半島地震などの影響もあり、これに限らなかったが、GはさらにCAという職業柄、同年1月2日に起きた羽田空港での衝突事故の影響を大きく受け、練習に参加できない日が多くなった。1月7日、チアリーダーとして活動できない日々を送るGの語りをオンラインにて聴取した。

筆者「全員でチアをやることって結構魅力だと思うし、結構それは共通認識だと私は思ってるんだけど、なんかGちゃんの中でXは特に…練習生みたいなのが基本的になくなって、みんなが出るってところが魅力だと思うし他の人もそれは魅力って言うてる人もいたんだけど、逆に全員で出るってことがプレッシャーになって、抜けることに抵抗を感じたりとか、どうにかでなきゃみたいなのとか、そういうのって感じたことあるかな。」

G「いやあ、でも確かに全員が出るのは魅力だし、やっぱ大学の時とか選抜チームとかだったの。なんか、全員が出る。すごいいいこと、ですね。ただ、多分論点がずれちゃうんですけど、今回のそのライスボウルとか出れない方から見ると、なんか私だけ…でもこれ多分話変わっちゃいますよね。」

筆者「全然！あのね実は聞こうと思ってたところだから、思った通りに話して欲しいかも。」

G「なんか私だけ遅れちゃうとか、何かそこで完成しているものに入る。なんていうんでしょう、プレッシャーというか、っていうのは、1回（チームから）出た身からすると、うん、感じる部分があって、私も昨日も仕事で練習行けなかったし、うん。あの水曜日（練習日）もちょっとステイなので行けなくて、っていうのがある。なんか一番遅れてるのに、なんか何とか追い付かなきゃいけないけど、でも、いけない。その間に皆さんがどんどん揃ってくし、みたいな。プレッシャーをというか、あります。ただこれが、本当に良くも悪くも、選抜チームだったら確実に普通に落ちてるだろうし、みたいな部分もありますよね。」

筆者「そうだね、うちのチームは緩いわけではないけど、なんかやっぱそれなりに何かみんなが自分勝手って言ったらちょっとアバウトだけど、それこそ遊んで、多分ないと思うけどその日も予定入れちゃったんだみたいな休んでるわけじゃないの知ってるから、今までの積み重ねもあるし、っていうのを知ってるから全然『なんで?』みたいにそんな練習来れないのみたいなふうにはならない。けど確かにそういう学校の選抜制とか、あとは学校じゃなくても、そういう他の組織で選抜して何かするってなると、やっぱりちょっとねっていうのは、あるよね。戻る場所はあるけどみたいな。」

G「はい、でも出るだけありがたいです。」

筆者「そうだよね。うん。多分我々はみんな出たいとは、みんなだね、絶対出たらいいなっていう気持ちでいるから、全然その辺は、気負いしないで欲しいんだけど。本来だったら、全部出る予定とか、シーズン通して抜けることなく来たいっていう気持ちはあったと思うんだけど…。いたはずのところにいなくなっちゃったっていう、何か後ろめたさみたいなものってやっぱりある?」

G「ありますね。すごいそれはあります。」

筆者「そうだよね。なんかさ、パフォーマンスが元々セミ⁶だったのがライスになってあの時、泣いてたじゃん?多分さ、情緒的な不安定な時期（本人が全員に対して申告）だったのかもしれないんだけど、それ、本当にそれだけだったのかなって私はちょっと思っていて、正直言うと、それだけじゃなかったというか、むしろあんまり関係なかったのか。」

G「もう生活が全部が不安定の中で、それを抛り所に、抛り所というか、元々セミ（セミファイナル）があって、セミを目標に、ここまでまずは頑張ってみたいな、訓練を乗り越えてっていう気持ちがあったところで、本番だけがなくなってしまった。本番だけはどうしても出れないところにずれてしまって、私も前のチームにいたときも、出れなくて、結構そのライスボウル楽しみにしてるところもあって。その前のチームのときに、元々今年はウェルカム⁷しかなかったじゃないですか。前のチーム入ってたけどハーフがあって、ウェルカムも出たいけど、すごく今年はRICEなのかというところで、その目標にしてた本番が、その、みんなのできる、今回OPだったんですけど、RICEになったってこの二重の、本番もなくなったし、行った先（日程の変更）も、目指してたところにずれたけどそれも出れないっていうならいろんなものが混ざって…って感じですかね。」

筆者「なるほどね。なるほどね。」

G「ぐちゃぐちゃですけど…」

筆者「何かわかんないからこそ、なんか気持ちがわかんないからこそブワッてきた。ていうのは、あったってことだよ。そっか…。」

G「そうですね、みなさんと練習してたところに自分だけがいなし、でもそれは自分都合だから仕方ないけれども、仕方ないし逆に皆さんに迷惑をかけてしまう。出たいけど出れない、みたいなこのなんですかね。自分も出たいし、でも出れないってことを皆さんに迷惑かけちゃうし。でももうなんか、どう、どうすることもできないみたいな。というところですかね…」→葛藤

⁶ 2024年のXリーグチアのパフォーマンスは当初、2023年12月10日のセミファイナルのハーフタイムで行われる予定であったが、会場の都合で11月14日に各チームの代表に日程変更の通達があった。

⁷ 開演前に会場外で各出演チームがそれぞれ1分程度行うパフォーマンス。観客とチアリーダーの距離が近く、RICE BOWL（2019以前はJXB）など、東京ドームでチアリーダーが集まるイベントでは例年行われている。

筆者「なるほど、出たいっていう気持ちがいっぱい強かったんだね。」

Gの会話中に言葉を選択しながら心境を言語化していた。RICE BOWLにおける自身だけの欠場について「迷惑をかけてしまう」といった心境や、困惑し、出場を強く願っていた状況での受容に苦難した心境と葛藤がみえたと同時に、チームの存在を「拠り所」と表現している。Gは出演できない事に対し、全員で行うパフォーマンスに迷惑をかけてしまう、という認識もあったが、それ以上の「出演したい気持ち」「パフォーマンスの機会」「心の拠り所」のポジティブな要素の喪失という点で出演できない悲しみや苦しみを強く感じていた。

更にGとは以前のチームに所属していた時の葛藤も語った。GはSチームの前に、当時X1の他チームに所属していた。本人は前職就職前に他チーム「シフト制部署に配属になる可能性は少ないが、0ではない事を相談した上で2月に行われるトライアウトを受験し合格した。その後、シフト制の部署に配属となり、サイドラインの振付を覚えはしたものの試合やイベントに一度も出演することなく、入職後は土日勤務が中心で練習にも殆ど参加することなくシーズンを終え、チームを離れた。

筆者「モチベーションとかさ、なんか、保つのしんどくなかった？」

G「そうですね…結構前のチームは、モチベーション…そうですね。練習ももう行けなくなってしまったのもうなんか本当に、ただ、練習生みたいな立ち位置になって、でもサイドライン全部覚えて出れないっていうのは、結構、モチベーション…覚えたのは何か。これは、どこにも行かないしどこにも披露されないし、でもそれはそのときは最初からわかってた部分はちょっとあったんで、シフト制になるっていうのを踏まえた上でチームを探して。シーズンは課が決まった時点で出れなくなる可能性があるんですけど、それでも、とりあえず受けられますかっていうチームで探してたので。シフト制の理解はあって、そしたら本当に30分の1ぐらいの確率の変化を引き当てて、同期で私だけでO課だったのが。でも、片隅にはあったんで、O課になってしまいましたってこと。ちょっと、披露するところがない。皆さんはそのサイドラインもシーズンに向けてフォーメーションを組んでるんで、もう入る場所もないし、最早、いる必要もない。ていう状態になって、モチベーション、は、な…ないないって言ったらあれですけど、そのときはもう、もうここで終わりだなと思いました。」

筆者「チアリーダーする上では、ね、やっぱり自分の場所がないと、なんかストリートダンスじゃないからね。」G「なんか別に来てても、私、ルーキーですし、そのときは基本的に、今もですけどルーキーで振りが入りたての状態、自分の振りも曖昧な状態で、居場所もない。本当にやることがない。もう正しい振りが何なのかもわかんないまま行ったところで、何か『ここはこうじゃないですか』っていうこともないみたいな、振り入れでも何か1回ずつやって覚えたよ、ぐらいだったので、なんかその温度感で、多分みんなとずれてきちゃうところもあるし。みたいな状態で結局、もう練習も途中からなんで、どうだったんですかね？いやもうシーズン入ってからスタッフとして、来たら来てねぐらいの距離になって、土日が絶対休みじゃなくて、平日が休みっていう状況だったんで、結局お手伝いも行けず。まだ、ちゃんと同期とは仲いいですけど、やっぱり何か共通の思い出は、ないと言ったらあれですけど、試合の思い出とかはないので、うん。やっぱり多分チームの見え方も違って来るし、あんまり、そうですね。結構、距離はある感じはしますね。」

筆者「なるほど。やっぱりでも、居場所がないとかその空気感もそうだけど、なんかちょっと話戻ると、その（体調が悪くて）抜ける時とかもさ、結局戻ってくることを前提に抜けるじゃんみんな。基本的当たり前なんだけど、もうそっから抜けても最後まで出ませんみたいな人いないじゃん。」

G「でも私、結構そのパターンだったと思います。前のチームに関してはもう、出る見込みが土日休み1年で異動っていうのがなかったので、うん。一生土日休みだし1個だけサイドライン、1試合だけ入るみたいなことって結構不可能じゃないですか。もう本当に出られてもイベント、お祭りとか一緒に出てみるくらいだったので。何か戻るところも特になかったですね。やっぱその点は本当に、もう春シーズンで引退みたいな形が一番近い。」

シーズンの中でのポジションの変更が試合毎に起こるという事は所属前から難しいという認識があることがわかる。

筆者「なるほどね、なんか、他の競技とかだとそれこそ駅伝とかさ、新体操とかさ、バレエもそうかもしれないけど、やっぱ1回抜けて補欠が入っちゃうとさ、もうその試合絶対出れないじゃん。でも競技はまた別だけど、応援の場合ってそうじゃなくて、また戻る可能性っていうのがあるっていうのは、やっぱり休むことに対してのある意味、モチベーションというか、もう1回する出ちゃったらもう私終わりたいなの、あんまりない・・・？」

G「むしろそうです。」

筆者「今シーズンとかもそうだけどみんな前半で抜けてて、後半で初めて抜ける人を見た記憶がなくって、多分気温とかも下がってきてとかそういうのもあったと思うんだけど、多分そうじゃないっていう子もいたんだけど、やっぱりハーフとかハーフだけは絶対とか、そういうのを計算して抜けたりとか」

G「それは確かに！」

筆者「そうそう。そういうことがあったりするんだよね。だから居場所っていう何か、私達はあんまり意識してない気がするんだけど、実はGちゃんはもしかしたらそういうのを経験してるから意識がどっかにあったかもしれないけど…」

G「あんまり意識してない…」

筆者「いや全然してなくていいんだけど(笑)、してないのが悪いとかじゃなくてね、全然そういうのをそう言えば、当たり前にあるけど、すごいありがたいことなんだっていうふうに、ちょっと今思ってた、その居場所があるっていうこと、その自分のポジションが自分のチアリーダーとしての居場所みたいな。それが休むときに一つの安定剤というか、そういうのになりうるんじゃないかという風に私は思ってるんだけど、どう？」

G「やっぱなんかもうこれでいって、出れないってのがあったら、何をモチベにしていかわかんないですよ。」筆者「そうだね。もう、Gちゃん今回はDREAM BOWL一応出るとは言ってるけど、なかったらもうしんどすぎたってことだね。」

G「そうですね、もう、仕事と、この仕事の初期の訓練やってた時は、どこへ(何を目指して)行くんだろうとか、結構考えたことはあります。全部、主なものは自分の選択だから、逆に皆さんに勝手なこととして申し訳ないなって思う気持ちが一番強い。けど、でもやっぱ一緒に出たいなっていう気持ちもあって、だから練習をしたい。これ本番自分がいないのに、もう披露する、これが本当に、どれも出れませんかってなったときに、一緒に練習して、するけど、自分はもう皆さんと踊る機会がなく、引退ですってなったときに、どういうモチベーションだったらいいいのかとか、逆にそのフォーメーションを自分が変わることで崩すなら入らない方がいいしって思うと、なんかもうやんない方がいいのかな、みたいになってきますよね。」

フォーメーションが変わる事が申し訳ない自責、自分の為に崩れてしまうことを危惧しつつも、同じ熱量、それ以上の「一緒に出演するための過程と結果」を強く望む葛藤もここではみられている。

筆者「でもそこまでの人間関係っていうのもあるよね？」

G「人間関係、本当に。結構大きい部分を占める気がします。」

筆者「それこそ普段、すごい極端に言えば仕事しないとか、そういう感じの人が、出れませんってなったらあんまり支えようとか、フォローしようっていう気にやっぱりお互いにならないし、あんまり出る気がないんだったら、だったら出なくていいんじゃないってなると思うんだけど。そうじゃないの知ってたし、今までも一緒に楽しく活動させてもらってたから、そういうのもあって、全然不快な思いをしなかったというか、大変だからなんか、フォローしたいなとかやっぱり一緒に出たらいいなって、それがベストだなって思えるチームだったからあれだけど、やっぱり人間関係が微妙だとそう思えなかったのかなって思ったり。」

G「いや！本当にチームに恵まれたなって親と話してました（笑）。」

筆者「親と（笑）。」

G「話してました（笑）。やっぱりそのおかげで、私は今、練習を楽しみに行っているというか、生きがいになってるといえるか、言い過ぎかもしれないけど。」

最後人間関係の話になると、少し疲れたような暗めのトーンだったGも急に明るいトーンで話し、GにとってSチームの人間関係を良く感じている事は、声色でも伺えた。

<1> テキスト中の注目すべき語句

<2> テキスト中の語句の言い換え

<3> 左を説明する語句 <4> テーマ、構成概念

確かに全員が出るのは魅力、大学の時とか選抜チームとかだったので、「全員が出る」す
 選抜チームより全員が出る方がずっといい、全員出演の絶対的価値、チ ヲムから「抜ける」こと
 聞きたい事じゃないと思うけど「抜ける事」 ヲムから「抜ける」こと
 で感じた事がある、みんなが出演するものに 言いたい事、全員出演から プな感情
 出演できない立場 逸脱するネガティブな感情

私だけ遅れちゃう、完成しているものに入るプレッシャー、1回（チームから）出た身か
 逸脱からの焦り、既にできているものに入る 焦燥、心理的重圧、葛藤、全員参加できる前提が
 らすと、感じる部分がある、昨日も仕事で練習行けなかったし、水曜日（練習日）もち
 心理的重圧、仕事とチアの両立の叶わなさ、 全員参加できることも一長 心理的重圧や葛藤を生
 ゃとステイなので行けなくて、一番遅れてる、何とか追い付かなきゃいけない、でも行
 良くも悪くも全員参加であるから保たれてい 一短 じる

生活が全部が不安定の中でそれを廻り所に、元々セミを目標に、ここまでまずは頑張って
 慣れない新しい環境の中での精神的支え、目 つらい訓練のモチベーション 精神的支えの喪失と不
 訓練を乗り越えてついでという気持ちがあった、本番だけがなくなりました、本番だけが
 標があったから訓練に耐えられていた、目標 ン、心の支え、精神的支え 可能な自己実現の二重
 どうしても出れないところはずれてしまった、前のチームにいたときも出れなくて結構そ
 がなくなつた、目標が絶対実現しないことが の喪失、自己実現されない 苦
 のライスポウル楽しみにしてるところもあって、元々今年はウエルカムしかなかった、ウ
 わかった、混乱、落胆、（実際に日程変更が 現実

なんか別に、私ルーキーですし、自分の振るも曖昧な状態で居場所もない、本当にやるこ
 ルーキーでダンスも覚えきってないからポジ 居場所の喪失、曖昧なチー 相関関係にある居場所
 とがなし、正しい振りがなかわかんないまま、温度感、多分みんなとずれてきちゃ
 ションもない、居場所がない、チームのダン ヲムイメージ、温度感のギャ の存在と心理的距離感
 ところもある、 どうだったんですかね？まだちゃんと同じ期とは仲いいですけどやっぱ何か
 スの在り方がわからない、チームとのギャ ヲップ、逃避、心理的距離感
 共通の思い出はない、試合の思い出とかはない、多分チームの見え方も違ってくる、 結
 プ、あんまり考えようと思っ ったように思う
 離感の違和感、チームに実績も居場所もな
 ったように思う

この仕事の初期の訓練やっていた時は、どこへ行くんだろうとか、結構考えた、 全部自分
 仕事の研修や訓練のモチベーションの上げ方 目標の喪失、自責・罪悪 ポジション喪失による
 の選択、逆に皆さんに勝手なこととして申し訳ないないって思う気持ちが一番強い、 でもや
 がわからない、自分勝手に迷惑をかけて申し 感、自己実現の欲求、処罰 目標の欠落と罪悪感
 っぱ一緒に出たいないって気持ちもあって、だから練習をしたい、 本番自分がいい
 感、一緒に出演するための練習がした 感情
 のに、披露、どれも出れませんでしたとき、一緒に練習するけど自分も皆さんとい
 い、仮に出演できなくなってた時のモチベ
 踊る機会がなく引退ですってなってきたときにどういうモチベーションだったらいのか、フ
 ーションを自分が変わること腑 ず、入らない方がいい、やらない方がいい
 ヲムにいない方がいいのか、フ
 ームにいない方がいいのか、フ

人間関係、結構大きい部分を占める気がします
 人間関係がモチベーションに与える影響は大 人間関係がモチベーション 人間関係がモチベ
 ンに与える影響 ヲムに与える影響
 きいと思う

いや！、チームに恵まれた、（笑）、練習を楽しみにに行っている、生きがい、言い過ぎか
 その通り、ありがたい環境、笑顔、練習が楽 チームへの感謝、希望、喜 チアリーダーのチー
 もしれないけど しい、生活の一部、過剰な表現ではない び の価値はチームの環境

以前のチームでも新卒採用でのシフト制のお仕事で、全員出演できるにも関わらず、試合でのパフォーマン
 出演の念望が強かったイベントへの出演が叶わなかった。出演したい気持ちと、フォーメーションの再構
 ヲムをフェードアウトした。S チームでも転職により、試合には参加出来たものの、出演の念望が強かったイ
 成等に罪悪感との葛藤、そして廻り所としていたS チームと過ごせない事等の葛藤は強く 語っていた。人間関係が影響しているのか問うと、生きがいと言いな
 ながら嬉しそうに語っていた。

【全員出演の魅力と重圧】 目標の喪失や罪悪感の心理的重圧が「泣く」という行為となった 【居場所】 廻り所・生きがいという価値が前提で、罪悪感や混乱、葛藤、涙として表出された

4 SCAT法によるGの概念化

第三節 チアリーダーの潜在的な認識

第一項 全員参加の心理的重圧

先に述べた通り、募集要項の1つに「全ての練習・試合に参加できること」は殆どのチームが掲げている。全員参加がXチアリーダーの前提と認識される要因は他にも様々あるが、その認識はどのようにチアリーダーの心理的重圧となっているのか。他者に感じる思いと、自分自身に感じる部分の違いについて対話式に個別聴取を行った。(2024年1月6日)

1) Cのケース

筆者「試合が始まってメンバーが抜けたってことがあったと思うんですけど、それに対して、抜けたチームメイトに感じる事とか、チームに対してもそうですけど、全員で退避した(サイドラインのパフォーマンスを中止した)とかもあったんですが、何か考えた事とかありますか。」

C「私結構樂觀主義っていうか、あんまりそこに何か穴をあけることに対して、駄目ってあんま思っていないっていうか、一言で言うとすごい難しいんですけど、基本的にチアリーダーやってる人ってベースに責任感はあるし、チアっていう競技の特性上やっぱり何だろ、フォーメーションを作るとかって1人いなくなると、それが成り立たないっていう芸術だったりするじゃないですか。スタンツとかもあるし、理由は何であれ、確かに一人居なくなることによって、100%の正解ではなくなるっていう事は事実。みんな、責任感をもって、『やり遂げる』っていうのでやってるだろうなっていうのをわかっているから、だからこそ(フィールドに)立てなかった時に責められないっていうか、なんだろう、(迷惑を)かけちゃいけないってわかっているからこそかけてしまった時の、その気持ちに寄り添いたくなる。逆に自分が抜けるってなると、一人抜けただけでフォーメ崩れるし、出来た事ができなくなるから、そこに対して申し訳ないという気持ちになります。特に(チア)リーディングと確かに、ベース1人いなかったら(スタンツが)上がらないしっていうので、受ける影響はリーディングとか、技系は大きい。バレエや新体操にせよ、団体で魅せる演技にすれば、何かしらやっぱりその人がいて初めて成り立つみたいなのところがあるから、チアリーダーも気質なのか、性格なのか、このカルチャーなのか、欠けちゃいけないみたいな、マインドが何かある気がしますね。」

筆者「でもNFLとかはバックアップメンバーとかがいるけど、」

C「今は例えばですけど、シーズン中に何か怪我とか例えば妊娠したとか出てチームに入れなくなったっていうとき、私の場合はキャプテンなのによっていう方が多分勝っちゃう。人数の一部として抜けるってよりは、キャプテンという立場っていうのが多分勝つから、そこでの申し訳なさだと思うんですけどね。状況にもよりますが、1人減っても変な話、試合の前日じゃないけど、フォーメ組み直せるんじゃないですか。やりようはいくらでもあるから、もちろん申し訳ないとは思いますが、そんなになんかもう、何?(メンバーだったら)死ぬまで後悔するとかではないと思うけど、そういう立場で急に出れない、チームから離れざるを得ないってなったら多分何歳になっても後悔すると思う。」

筆者「そうだよ、チームとしてもそうだし、あとは例えば駅伝とかその新体操とかもだけど、怪我したりとか、1回自分が抜けて補欠が入るという立場になると、もうその5人のチームとか駅伝のチーム戻れない可能性がめちゃめちゃ高いじゃん。そういうのはある意味Xリーグではない。だけど…」

C「『確か』は多分ない。」

筆者「多分縛りがあってそうやって抜ける時に、何を思って抜けているのかなっていう。でも多分戻る前提で抜けてるといふ、計算してるところも…抜けちゃいけないのか、抜けたくないなんかどっちもなのかっていうのもあると思うし。やっぱ自分に対してと他人に対してはやっぱ違う?」

C「うん、全然違うと思います。自分に対しては最初言っていたみたいな責任感っていうところ強く出ちゃうのかも。他人に対しては思わないけど、でもやっぱり根本にはあるんだと思う、その考えが、1人欠けてはいけないっていう考えがベースにあって、でもそれを自分に対して言ってることであって、それを他人に押し付けるわけじゃないよねっていう感じ。別にこれは多分私の個人的な性格の考え方ってのももちろんあると思うんですけど、でも自分も、やっぱり出たいし抜きたいわけじゃないからもちろんなるべく、できる限り出る努力はします。」

筆者「やっぱりみんな、例えばハーフタイムとかはみんなやって、サイドラインもそうだけど、みんなやってきたものだから、絶対ハーフタイムだけは、とかっていうのは？」

C「確かにそうですね。みんなやってきたことが、見せられないっていうのが根本的、みんなの努力を自分のせいでも何もできないみたいなっていうのは私もそれはあるなと思いますね。」

筆者「それは例えば、Xのチアだったらサイドラインとハーフとオープニングいろいろあるけど、やっぱり抜けたら絶対ハーフは抜けたくない？」

C「確かにサイドライン。1回抜けてハーフのために温存するって考えるなって私は思う。」

筆者「実は皆さん抜けるの前半なんだよね。当たり前かもしれないけど、ちゃんと戻ってくるしっていうのをちょっと思ったりもしたんで…」

C「暑いし雨降るし寒いしそれはあんなとこで腹出したら体調がおかしくなるわって感じじゃないですか（笑）」

筆者「寒かったもんね（笑）」

C「最終戦って本当に関節がマジでなんか固まって動かなくなって、意識はあるし元気なんですよ。こっから（胸から）上は。でもなんかここは言うこと聞かなくて、私フィールドでたら多分歩けないぞって思ってやばいって思ったんですよ。なんか他のリーグって室内じゃないですか。基本的にアイスホッケーとかはめっちゃ寒いけどあれってもう寒いじゃないですか。寒いから寒い対策をすればよくて、なんかうちらみたいにめっちゃ暑いめっちゃ寒い雨降る炎天下っていうなんかあまりにも環境が乱高下する状態なところでチアやってる人って、Xぐらいですかね？」

筆者「そうじゃない？まあサッカー（のチア）は私あんまり見たことないんだけど…」

C「確かに確かに。外か。外だけどずっと出てるわけではないので、どうなんだ。最近あれか。ラグビーとかもちょっとチーム増えたりとかもしてますもんね。」

筆者「なんか途中で体調悪くなる率って一概に言えないんですけど統計ないし、結構Xはやっぱしんどいんじゃないかなとは思って、今喋ってて、そうか、今日も（体調不良での欠席者がいて）そうなんだよね。なんか最初生理のことを調べて、みんな女の子と他のチームに男性いたりするけど、もう絶対あるじゃん闘ってるじゃん。」

C「いや、もう先々月、先月、2週間半ぐらい来なくて本当それこそ本当です。普通に来ましたよ（笑）」

筆者「よかったよかった（笑）」

C「でもめちゃくちゃ（生理の量が）多くてびっくりしたんです。それでもなんかそれでめっちゃ多くてしんどいとか思っても、ビデオ撮りだったから途中でしんどい顔で来たけど、試合だったらやばかったなって。」

昨年、Cが試合中に離脱した際は「申し訳ない」という気持ちを話し、それに変化はないが、キャプテンという立場になって、その責任感、重圧はさらに強くなっている。そして離脱すること自体の見た目やパフォーマンスの難点は語りつつ、やりようがあることも自覚している。そして、他者に対して離脱することにネガティブな感情をもつことはなく、寧ろXリーグでチアをやることにハードルの高さを指摘している。

2) Fのケース

筆者「夏にメンバーが途中で抜けた時に、いない子の分も頑張ろうかなみたいな、ないかもしれないんですけど何で抜けるの?とか、体調管理は?とか、そういうことを思ったりとか、ありますか?」

F「そうね。Bちゃんが抜けたときは最初気づかなくて、振り向いたときに気づいたんだけど、なんだろうな、結構試合にアップアップで自分、本当は周りの子のことを考えなきゃいけないんだけど、次の試合の流れとかを考える方が優先しちゃって、多分抜けた理由は体調悪いとか足くじいたとか、そういうのはあると思うけど、私は、後に考えればいいと思ってる。あんまり気にしてないかも。」

筆者「良い意味で気にしてないって事ですかね?自分がちょっときついなとかって思うときに、『でも抜けたら迷惑だろう』とかそういうことを考えたりします?」

F「あんまりそういう場面にならないかな。怪我とか、OGの人から声掛けられない時は、かけられたらいけるけど、かけられるまでは頭が痛かろうが。実際ね、気持ち悪いとかあったけど、抜けちゃ駄目みたいなもうなんかでたら、何があっても抜けない精神っていうの私が、あったから人から見て何か感じたのか多いとか、なんかダンスよろけてるなとか、そういうふうに見られたら、誰か見ても病的な感じになったらさすがに何か汚いから、美しくないから抜けるけど、自分から抜けるっていうのは、あんまりしない。もうそこは他人に委ねる。人から見てあまりにも顔色おかしいとかだったら、もう生死に関わるけど、言われなければ、もう闘いみたいな、うん。」

筆者「なるほどやっぱ抜けちゃ駄目みたいな。毅然というか、縛りみたいなので自分の中でありますかねもう、チアリーダーとしてみたいななんかんでチアリーダーってそこから抜けちゃいけないとか考えたことないかもしれないんですけど…」

F「多分実際お客さんはずっとこうやってチア見てる人は数人しかいないと思うけど、舞台とか演劇とか、そういうショーと一緒に、ディズニーランドもさ、キャストさんが出てダンサーさんが出てさ、途中でダンス抜けるとかないじゃん。それと一緒に1回出たらもうそこがステージだから、そこで抜けちゃうっていうのは何か勿体ないかなって。」

筆者「もったいないって何か新しいので、何かちょっと今、グっときました…」

F「やっぱりこのチャンスを逃すのは、もったいない。せっかく出るし、トライアウト落ちちゃったとか、サイドラインに立てない子のことを考えると。」

筆者「何か抜きたいときに抜けれない。ていう何か、今まで私がSチームに入ってきて、試合中に倒れちゃったとかってことは見たことないですけど、やっぱり途中で抜けるときに葛藤があるとか、みんなに迷惑かけちゃうんじゃないかなっていうところを考えていて。でも他の人のことは良い意味で考えてないっていうのも何かのいいなと思って。」

F「抜けたらなっていう、その考えで余裕があるうちは、大丈夫な気がする。なんか本当にね、私は抜けることを考えないから…抜けるならなんかね、何か、しなきゃいけなくなっちゃう。」

筆者「出るのが基本だから、やっぱりもったいないっていう言葉をちょっとおっしゃってたと思うんですけど、やっぱりその出るっていうとこ、みんなが出るというところに価値は…?」

F「うん、そうそう。ある。何か、5人なら5人10人20人って揃ってなんぼ。団体競技ってやっぱり誰かが上手い下手とかじゃなくて、みんな出て当然だしっていう基準がある気がするから、そうね。もったいないなって思っちゃう。」

筆者「なんか、そういう抜けることとかに対して何か思いがあれば最後に、どうあればいいのにとか、みんなですることに対してでもいいです。」

F「何だろう結局はなんか練習とかきつくなったら、自分だけがきついわけじゃないなどか思うようにして、遅く帰って明日も仕事だしとかって思うときに、みんなも仕事だし、みんなも遅くまで練習してるしとか、自分だけじゃない、みんなのことに置き換えて考えると、何か自分だけがつらいわけじゃないんだなと思ってまして。それを試合に例えると、多分自分だけ頭痛いとか気持ち悪いとか私だけじゃないだろうなって、もうひと踏ん張り、あと1が終わったら10頑張ろうみたいなそういう強い気持ちで立ってほしいな。試合には、抜けたら負けだと思って、抜けたらもう死んだと思って、すごい自分がチアリーダーとしてそして自分と向き合ってる、試合にいる自分と屋根の下から見てる自分とは全然違うと思うし、抜けたら負けだし、なんだろう何とも言えないけど抜けたらチアリーダーの自分という価値がもうその試合ではない、と思った方がいいかな。」

サイドラインやフィールドは「ステージ」と表現し、且つ、そのステージに立ちたくても立てない人がいるという意識が、Fがつらい状況でもサイドラインに立つ力になっている。試合に立ち続けることがチアリーダーの価値であり、サイドラインに立てる基準が自分ではなく他者の捉え方が重要であることも語りながら、全員が出演することに価値を見出している。それができないことを「もったいない」と語る。Fは自分の苦しみを他者に投影しながら、それを糧に自分を奮い立たせ、自分自身とも闘ってきたことが伺える。

第二項 理想のチアリーダー像

応援チアにおけるチアリーダーは名前の通り、スポーツ観戦で応援を牽引しながら会場を盛り上げていくのが一般的に認識されている役割である。これまで「(サイドラインに)立ってはいけない」「捌けた方がいい」と思ったBやC、Fは語っていた。

筆者「自分が夏に抜けたときは色々考えたこともあったと思うんだけど、他の人が抜けた時に思ったこととか何かあれば教えてください」

B「私的に、何だろう、苦しい顔とかでパフォーマンスするほうが見苦しいので、自分に優しくしてもらった方がいいなって思います。自分がそういう時(体調不良とか)もそこを優先。お見苦しい姿はちょっと見せられないじゃ、部活の感じとは違うじゃないですか。やっぱ最後までやるのが『美』じゃないので、今(Sチーム)のチアは、綺麗でい続ける、綺麗にできそうだったら戻ればいいやみたいなの。」

筆者「結構みんな、前半に抜けてて、Bちゃんが抜けるときもハーフを意識したり、少し計算して抜けた部分があった？抜けるなら今！みたいなの。」

B「そういう発想、選択肢はあんまり意識してなかった。やっぱりXというか、チアリーダーとして綺麗でいなきゃ。の方がありました。」

筆者「部活とは違うって言ってたけど、どうしてそういう風に思ったの？」

B「結構雨の中でもXのチアリーダーってやってるじゃないですか。あれもあんまり、結構、かわいそうって思っちゃう。誰か引っ込んでもいいんじゃないかなって思っちゃう派なので、それが醍醐味って感じで…なんか結構、完全体でいてほしいっていう思いがあるんですけど、それは何でかってことですよね？」

筆者「でもそう感じるってことは、自分もそうでなきゃみたいなのはある？」

B「…そうですね。でもチアリーダーが好きだからかもしれないです。美しいチアリーダーが好きだから、そうじゃなくなるなら、一旦、セーフティ(離脱)してもいいのかなって思うかもしれない」

筆者「理想に寄せたいみたいなの？なんか前回、やっぱ全員で出ること自体は、魅力っていうところもちょっと話したと思うんだけど、何か抜けた時に自分が抜けた、人が抜けるでもどっちでもそうなんだけど、全員でパフォーマンスできなくなるってことに対しては、特にあんまり考えたことはない？」

B「そうですね、何かハーフとかはいなぎゃとか、でも、私が抜けたらそのフォーメーションはできなくなるので、それは申し訳ないなと思いつつ、でもそれって結構中からの自己満足というか、お客さんありきのチアリーダーの外からの目で言うと、しんどい人が踊ってるよりはって思うかもしれないです。自分的には罪悪感がありますけど、外からの目と、自分の罪悪感だったら美しい方がいいかなって。」
筆者「なるほど、魅力ではあるけどやっぱりお客さん視線をすごく意識してそれでお客さんありきでチアリーダーをやってるなるほど私もそういうのを見習わないとね！」

Bにとって、パフォーマンスをする上では「美しい（あるいは健康的な）チアリーダー」が理想であり、それを維持する為の手段としてパフォーマンスから離脱といった行動になっている。これまでの「立ってはいけない状況」というのは、こういった「理想から逸脱する状況」であるともいえる。

概	美しさの維持	全員出演の魅力	メンバー自身の価値と居場所
定	離脱の基準が「完全で美しい」状態からの逸脱である	全員が出演することが完全で美しいという認識	欠員が出てもしパフォーマンス再構築ができるという認識
具体例とバリエーション	<p>B：結構雨の中でもXのチアリーダーってやってるじゃないですか。あれもあんまり、結構、かわいそうって思っちゃう。誰か引っ込んでもいいんじゃないかなって思っちゃう派なので、それが醍醐味って感じで…なんか結構、完全体でいてほしいという思いがある</p> <p>苦しい顔とかでパフォーマンスするほうが見苦しいので、自分に優しくしてもらった方がいいなって思います。自分がそういう時（体調不良とか）もそこを優先。お見苦しい姿はちょっと見せられないんじゃない、部活の感じとは違うじゃないですか。やっぱ最後までやるのが『美』じゃないので、</p> <p>やっぱりXというか、チアリーダーとして綺麗でいなさや完全体でいてほしいという思いがある</p> <p>美しいチアリーダーが好きだから、そうじゃなくなるなら、一旦、セーフティ（離脱）してもいいのかなって思うかもしれない外からの目と、自分の罪悪感だったら美しい方がいいかなって。</p> <p>C：特に（チア）リーディングと確かに、ベース1人いなかったら（スタントが）上がらないしってあるので、受ける影響はリーディングとか、技系は大きい。バレエや新体操にせよ、団体が魅せる演技にすれば、何かしらやっぱりその人がいて初めて成り立つみたいなのところがある</p> <p>フォーメーションを作るとかって1人いなくなると、それが成り立たないっていう芸術だったりするじゃないですか。理由は何であれ、確かに一人居なくなることによって、100%の正解ではなくなるっていう事は事実</p> <p>F：何があっても抜けない精神っていうのが、あったから人から見て何か感じたのとか、なんかダンスよろけてるのとか、そういうふうに見られたら、誰が見ても病的な感じになっただけで何か汚いから、美しくないから抜けるけど、自分から抜けるっていうのは、あんまりしない。もうそこは他人に委ねる。言われなければ、もう闘いみたいな</p>	<p>C：チアリーダーも気質なのか、性格なのか、このカルチャーなのか、欠けちゃいけないみたいな、マインドが何かある気がしますね。</p> <p>別にこれは多分私の個人的な性格の考え方ってのももちろんあると思うんですけど、でも自分も、やっぱり出たいし抜きたいわけじゃないからもちろんなるべく、できる限り出る努力はします</p> <p>F：1回出たらもうそこがステージだから、そこで抜けちゃうっていうのは何か勿体ないかなって</p> <p>やっぱりこのチャンスを逃すのは、もったいない。せっかく出るし、トライアウト落ちちゃったとか、サイドラインに立てない子のことを考えると。</p> <p>揃ってなんぼ。団体競技ってやっぱり誰かが上手い下手とかじゃなくて、みんな出て当然だしっていう基準がある気がするから、そうね。もったいないなって思っちゃう。</p> <p>多分自分だけ頭痛いとか気持ち悪いとか私だけじゃないだろうなって、もうひと踏ん張り、あと1が終わったら10頑張りみたいなそういう強い気持ちで立ってほしいな。</p>	<p>B：私が抜けたらそのフォーメーションはできなくなるので、それは申し訳ないなと思いつつ、でもそれって結構中からの自己満足というか、お客さんありきのチアリーダー</p> <p>美しさを保てるなら戻ればいい</p> <p>C：1人欠けてはいけないっていう考えがベースにあって、でもそれを自分に対して言ってることであって、それを他人に押し付けるわけじゃないよっていう感じ。</p> <p>F：試合には、抜けたら負けだと思って、抜けたらもう死んだと思って、すごい自分がチアリーダーとしてそして自分と向き合って、試合にいる自分と屋根の下から見てる自分とは全然違うと思うし、抜けたら負けだし、なんだろう何とも言えないけど抜けたらチアリーダーの自分という価値がもうその試合ではない、と思った方がいいかな。</p>
論理的メモ	<p>B：チアリーダーは綺麗であるべきだが、不自然な元気さは求めておらず、Bのイメージするチアリーダー像に従い離脱を優先としている</p> <p>C：欠員が出ることにより100%という完全な状態ではなくなるという認識</p> <p>F：客観的にみて健康的で美しい状態が維持できるかという離脱の基準がある</p>	<p>C：責任感やカルチャーとは関係なく出演したい、抜けたくないという意識</p> <p>F：全員で出演できることが前提ではなく、チャンスであり価値があるという認識がある</p>	<p>B：チームの満足よりも、観客から見て美しい状態であることが優先であり、パフォーマンスにもバックにも居場所がある</p> <p>C：自分の認識の問題で、チームとしてメンバーの居場所を失くすつもりがない</p> <p>F：パフォーマンス中はチアリーダーとしての自分を生かす場所であるという認識</p>

表 5 M-GTA 法によるチアリーダーの潜在的な認識

次節より、2) パフォーマンスの維持の視点からチアリーダーが欠員に対しどう考え対応しているのかを述べる。

第四節 試合中に起こる体調不良と欠員

2023年、Sチームは8月27日に秋シーズンの初戦を迎えた。協会では、X1の試合では午前9時の時点で予想最高気温が28℃を超える際には“ウォータータイムアウト”を設けている（）。これは、1Qあたり12分の競技時間の中で、残り6分となった際に競技を中断して1分間の水分補給を行うというルールである。

第一項 月経や熱中症による試合中の離脱

エピソード①

Sチーム2年目のチアリーダーCは、1年目の遠征試合で月経2日目を迎えた。SチームもCも初めての場所であり、Xリーグでの経験はあったものの、月経症状が重いタイミングで試合が重なる事が初めてであった。

1Q終了間際でCは一度パフォーマンスから離脱した。その時の心境を語った。筆者「去年の多分10月かな。あの時に体調が悪くて一回抜けたじゃん？その時のこと何でもいいので思ったことありますか」

C「体調悪かったんじゃないくて、結構誰が見てもわかるぐらい（血が）ストッキングを伝って、それは人前に立っちゃいけない状態だったので捌けたんですよ。（中略）怖いからナプキン当ててタンポンを入れてたんですけど、それでもやっぱり漏れちゃって、そのときはもう自分が恥ずかしいっていうのもあるんですけども、穴を開けてしまったサイドラインに、QTの前で、みんなはポン文字できないってなってたんですけども…パニックってたんでしょ。私がサイドライン抜けて何ができないのかっていうのを考えてなくて、とにかく人前に立っちゃ駄目だと思ったんですよ、人の目線から外れなきゃと思って。なんか恥ずかしいのと大人としてやばいなっていうのと、自分のことよりもちょっとそのチームとしてどう見られるかとか、サイドライン捌けちゃったっていうことに対しての申し訳なさ、私がもうちょっと直前に（ナプキンを）代えてればっていう自分の準備不足に対する申し訳ない、申し訳ないが多かったです。」

エピソード②

Sチーム3年目のチアリーダーAは、8月27日の朝に月経1日目を迎えた。控室で準備をしていた際にも、メンバーと月経について「今日生理1日目なんだけど。おなか痛い、怠い」と話し、調査者は「薬あるよ、いる？」と問いかけたが既に内服していた。16時キックオフではあるものの、立っているだけで汗をかく状況であり、2Qの中盤にAは離脱し、観客の死角で過呼吸となった。ここでSチームのコーチは5回ほどサイドラインでのパフォーマンスを行ったのち、メンバー全員を捌けさせ休息をとるよう伝えた。それに加え、「ハーフタイム辞めよう」とチームに伝えた。チームのメンバーは即答はしないものの、状況をみてメンバーと目配せしながら頷いたが、Aだけは「やります」と言い続けた。

コーチがAに駆け寄り、「みんなで最後まで踊りきる事が大事。だからハーフは諦めて後半頑張ろう」と説得したが、Aは「やります」と言い続けた。膠着状態となったやりとりにコーチは「じゃあ、3Qは出ないで。それはもう絶対譲らない。ハーフをやるならそれは諦めて」と条件をつけた。Aは「やれます」と言ったが、コーチに従いハーフタイムは行い、3Qは9人でパフォーマンスを行った。試合後、Aは「ウォーター（タイムアウト）あると思ったのに。あれで一回整えようと思ったのに…」と話していた。この時のやり取りについてAにインタビューを行った。

筆者「8月の初戦に抜けちゃったときに感じた心境を、生理のことも含めてでいいので具体的に教えて」

A「抜けたときは、ハーフをやりたいっていうのが一番で、踊りきってハーフができるのがベストだけど、体力的にもう無理だってなって、しょうがないと思って。2Q終わってハーフができないって状況になる可能性、リスクを上げるか、今捌けてハーフを踊るかっていうのを考えた。だったら今捌けた方がいいと思って。どっちもは無理だと思った。」

筆者「ハーフを重要視してたっていう言い方も変だけど、サイドラインは何度か踊るチャンスはあるし、ハーフは1回だから？」

A「1回だけだし、それを楽しみに来てくれるお客さんももちろんいると思うし、広報係として楽しみにしててくださいと宣伝してきたのもあるから。新しいハーフって言ったのにやらなかったら、そこでお客さんも残念だなって感じると思うから…まあ別に係やってなくてもだけど。朝自分で投稿もしてるし、初戦だったし、試合も7回しかないから。別に3回しかやらなくていいって訳じゃないけど、初お披露目だし、絶対にやらなきゃいけないじゃないけど…ハーフに重きを置いていたところはあった。サイドラインももちろん大事だけど。今一人抜けるか、みんなのハーフを駄目にするかって思ったら、ハーフはできた方がいいかなって。優先順位じゃないけど。」

エピソード③

Sチーム1年目のチアリーダーBは、9月17日の第2節の1Q終盤で離脱した。この時はウォータータイムアウトはあったが、快晴でキックオフは13:30で、衣装のブーツではフィールドの人工芝が熱すぎて立ち続けるのも困難な環境であった。

筆者「夏に一回、(サイドラインから)抜けたことあるじゃん?思ったこととかあれば…何か、もっと踊りたいなあとか、とりあえず休みたいとかの葛藤とかあれば。」

B「私が抜けるとダンス系のものができなくなってコール系しかできなくなるので、それを申し訳ないなと思いつつ、やばい顔とか、ずれてない?みたいな感じで出てる方がお見苦しいな、抜けた方がいいなって思いました。お見苦しいのはちょっと何か、応援する側がされる側になっちゃうとちょっと違うなと思ったので。そっちの判断のほうが大きかったです」

筆者「私もルーキーの時、一瞬抜けたんだけど、それは思ったかも。」(中略)「やっぱ女の子が多い世界じゃん。どうしても生理とかで体調が悪くなることとかあるじゃん。そういうことがあると自分の体調管理とか自分の責任みたいな感じになると思うんだけど、つらい中やってるなって思う事ある?」

B「確かに夏はきつかったです…でもちょっと食事とか結構おにぎり食べてたんですけど普通に肉食食べた方がいいなって思って変えました！」

概念	期待される自己管理からの逸脱	他者評価の重圧	美しい状態からの逸脱
定義	暑熱環境・月経・天候不良など、対処の仕方がある程度確立されているにも関わらず、準備不足で体力的に踊れない状態になったと認識していること	客観的視点からの評価を想像して、心理的重圧を感じる状態	一般的なチアスピリットに基づく、常に笑顔で人を応援し元気づける事ができない状態
具体例	<p>A：今日生理1日目なんだけど。おなか痛い、怠い</p> <p>踊りきってハーフができるのがベストだけど、体力的にもう無理だってなって、しょうがないと思って。2Q終わってハーフができないって状況になる可能性、リスクを上げるか、今捌けてハーフを踊るかっていうのを考えた。</p> <p>ウォーター（タイムアウト）あると思ったのに。あれで一回整えようと思ったのに…</p> <p>B：確かに夏はきつかったです…でもちょっと食事とか結構おにぎり食べてたんですけど普通に肉系食べた方がいいなって思って変えました！</p> <p>C 怖いからナプキン当ててタンポンを入れてたんですけど、それでもやっぱり漏れちゃって、そのときはもう自分が恥ずかしいっていうのもあるんですけども、穴を開けてしまったサイドライン</p> <p>サイドライン捌けちゃったってということに対しての申し訳なさ、私がもうちょっと直前に(ナプキンを)代えてればっていう自分の準備不足に対する申し訳ない、申し訳ないが多かったです。</p>	<p>A：1回だけだし、それを楽しみに来てくれるお客さんももちろんいると思うし、広報係として楽しみにしててくださいと宣伝してきたのもあるから。新しいハーフって言うたのにやらなかったら、そこでお客さんも残念だなって感じると思うから…</p> <p>初お披露目だし、絶対にやらなきゃいけないじゃないけど…ハーフに重きを置いていたところはあった。</p> <p>B：私が抜けるとダンス系のものができなくなってコール系しかできなくなるので、それを申し訳ないなと思いつつ応援する側がされる側になっちゃうとちょっと違うなと思ったので。</p> <p>C：穴を開けてしまったサイドラインに、QTの前で、みんなはポン文字できないってなってたんですけども…パニックってたんでしょう。私がサイドライン抜けて何ができないのかっていうのを考えてなくて</p> <p>恥ずかしいのと大人としてやばいなっていうのと、自分のことよりもちょっとそのチームとしてどう見られるかとか</p>	<p>B やばい顔とか、ずれてない？みたいな感じで出てる方がお見苦しいな、抜けた方がいいなって思いました。</p> <p>C：体調悪かったんじゃないくて、結構誰が見てもわかるぐらい（血が）ストックングを伝ってて、それは人前に立っちゃいけない状態だったので捌けた</p> <p>ナプキン当ててタンポンを入れてたんですけど、それでもやっぱり漏れちゃって、そのときはもう自分が恥ずかしいっていうのもあるとにかく人前に立っちゃ駄目だと思ったんですよ、人の目線から外れなきゃと思って。</p>
論離的メ	<p>A：自身の体調を自覚しつつ、体調をコントロールしようとしていたがうまくいかなかった</p> <p>B：離脱した経験について、体調管理を省みて行動を変えた</p> <p>C：普段以上に月経対処について向き合っているにも関わらず対応しきれなかった無念や羞恥心、対応できて当然という認識からの自責を感じた</p>	<p>A：観客の視点を意識した判断、係としての責任感、優先順位</p> <p>B：応援する立場であり、応援される側ではいけないという認識</p> <p>C：離脱することによるチームの見られ方、印象の悪化を懸念する罪悪感</p>	<p>B：美しくない状態だったパフォーマンスを継続するべきではないという認識</p> <p>C：他者から心配されるような状況、想定外の状況で人前に出てはいけない、出たくないという認識</p>

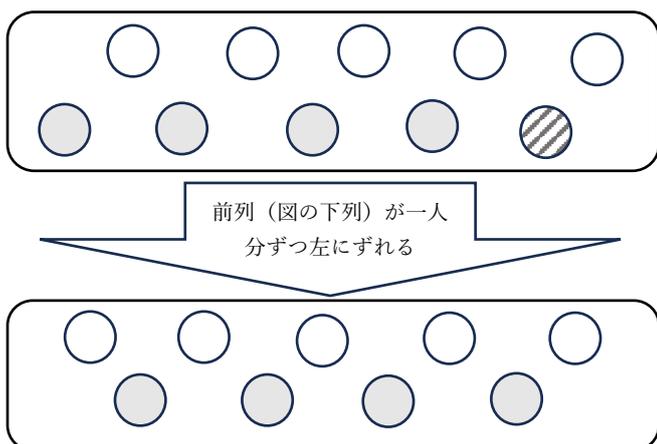
表 6 M-GTA 法による体調不良時の離脱に対する当事者の認識

第二項 メンバーが欠けたままのパフォーマンス

エピソード①～③の試合では共通してメンバー欠けた状態でパフォーマンスを行った。その際、左右ができるだけ対称となる形を意識して、メンバーが抜けた次のパフォーマンスから行っている。選曲は、曲とパフォーマンスの理解ができていないスタッフが担当し、できるパフォーマンスでサイドラインの演出を続けた。

もう一つの共通点として、最初に離脱しているのは全て試合の前半にも関わらず、ハーフタイムショーは想定されたメンバーで行っている点である。Aの発言からも、ハーフタイムショーはパフォーマンスの中でも重要視されており、全員でのパフォーマンスの前提となっていることが伺える。

エピソード①、③



エピソード②

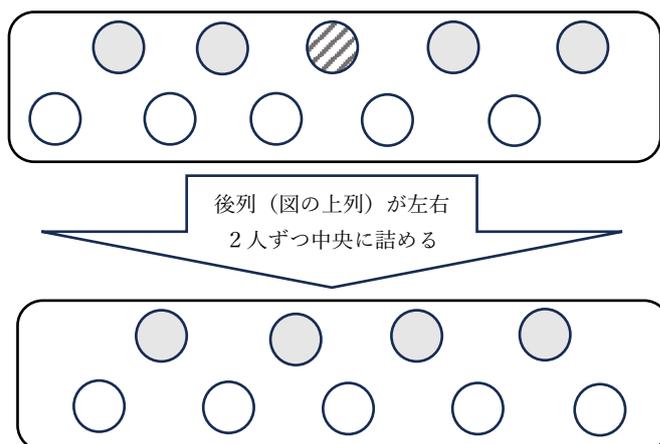


図 1 欠員が出た際のフォーメーションの変化の実際

図2ではサイドラインでのパフォーマンスを図式化したものである。バランスを意識し、対称なフォーメーションで再構成されている。このフォーメーションをあまり崩さないパフォーマンスであれば、欠員が出てても対称を意識した見た目の整ったパフォーマンスが行える。

第五節 セミファイナルハーフタイムショーでの代役

年に2回程度、XリーグのPEARL BOWLとRICE BOWLのファイナルでXリーグのチアリーダーが集結し、5分前後のパフォーマンスを行っている。起源は定かではないものの15年以上は続いている、いわば恒例行事となっている。2020年のCOVID-19パンデミックによる規制を挟みながらその恒例行事は絶えず行われてきている。このパフォーマンスはおよそ2ヶ月前には参加人数（X1は基本全員、X2は5名以上の希望者）を運営に提出し、本番と別日のリハーサルに必ず出席できることを条件として各チームに通達されているものである。

本節では、2021年12月12日に行われたRICE BOWLトーナメントセミファイナル（以下、セミファイナル）でのハーフタイムショーでの出来事について述べる。

第一項 妊娠したチアリーダーの代役を務めるまでの経緯と思い

2021年度はCOVID-19の影響を受けて、PEARL BOWLでのパフォーマンスは行われず、RICE BOWLトーナメントのセミファイナル及びファイナルで感染対策を考慮し、人数や会場を検討しながら異なるパフォーマンスを行った。ファイナルではX2リーグ所属のチアリーダーはパフォーマンスに参加することはできず、セミファイナルはX2リーグ所属のチアリーダーがパンデミック後に初めて合同パフォーマンスに参加できる機会であった。

そんな中、X2リーグに所属していたBチームのチアリーダーの一人が、本番2週間前に妊娠が発覚した。チアリーダーのCは、チームメンバーからこの状況を聞き、直ぐに代役を引き受けた。Cは2020年度のシーズンでBチームを引退しており、他チームにも所属していなかった。ここではCに代役を務めるまでの経緯について話を聞いた。

C「11月23日の試合にスタッフで行ったんです。そのときに、この後予定ある？って言われて。（中略）Bチームの人数を運営に提出した後である程度進んだ…1人出られなくなりました。でもそれも誰も悪くないっていうか、おめでたいことで別にそれは悪いことじゃないし否定することでもないし、そういう状態でチアされる方もいるけどその方が出産にしては結構ハイリスクな年齢だったので。もう安全でいてほしいからOGさん的には『できれば彼女出たくない』と、『本人は頑張りたいって言ってるけど、何かあったからじゃ遅いから…C出られたりする？』って言われて、もう出るしかないと思った。拒否権も何も無理ですと言えないなって思ったので、もう迷うことなくやりますと、やらしてくださいと。私しか、もう私が出ないとチームを救えなかったんで、出ることになったっていう感じですね。」

代役引き受けるという事に抵抗やネガティブな感情の表出はなく、むしろ責任感や貢献のような意思が汲み取れた。それと同時に、メンバーが一人欠ける事が「悪」と認識されているからこそのOGさんの提案やCの「チームを救う」とい言葉になっている。

筆者「チームを救えないっていうことは…ちょっと掘り下げてもいい？もしこれで穴を開けたら、どうなるっていう感じ？今後出させてもらえないとか。」

C「もちろんはい、そういうことを感じました。私2019年にBチームに入ったんですけど、多分あんまり運営の評判良くないんですよ。そんなにダンスは踊れないし、踊れないわりに積極的に何かやるでもないし、可もなく不可もなく、むしろ足を引っ張ってる感じの印象がすごくあったので、これ以上マイナスを与えたら本当に出られなくなるって思ったんですよ。チームとしては結構歴史があるチームですけど、多分ここ最近の2019年よりちょっと前ぐらいかな、評価が多分良くなかったっていう印象があったので…もちろん直接は聞いてないけど、なのでもうこれ以上マイナスにはできないなっていう、もう離れたチームではあるんですけど、もちろんその時に2020シーズンで引退してるから関係ないけど、やっぱり自分にとって大事なチーム、それがきっかけで、そこで拾ってもらえたから今のチア人生があるからなんかやっぱり大事なチームなんですよ。私はそのチームがXリーグのチアとして『何かあそこ…』ってなっちゃうのが耐えられないなと思った。」

第二項 代役を務めた実際のパフォーマンス

2021年のセミファイナルでは約5分のパフォーマンスのうち、前半は1曲を1チームあるいは2チーム合同で8×4カウントの演技を2チームずつ交代して行うパフォーマンスであった。多くのチームは自チームの既存の演技を曲に当てはめるケースが多かったが、Bチームは人数の関係で他チームと合同でパフォーマンスとなっていたため新しく振り入れを行ったが、Cは代役を引き受けてから本番まで3週間の期間があり、対応することができた。

運営側も人数のみ把握していたため、既定のフォーメーションを変更することなくパフォーマンスを終えられた。調査者もこのパフォーマンスには参加していたが、Bチームで起きたこのエピソードはCと出会って初めて知ったことである。2021年はCOVID-19の影響があったにも関わらず、欠員を出すことが認識や評価に繋がったのかはわからないままである。

Bチームは2023シーズンにチアリーダーを再編成し、全員が子を持つOGで構成されている。Cに、当時妊婦であったチアリーダーが復帰しているか尋ねると、「その時の妊婦さんは戻ってきてないですけど、今Bチームはみんなママですからね！ああやってママになっても好きなことを続けられるっていいですよ。」と笑顔で話し、今は母となったメンバーとその子ども、そしてCの同期メンバーと笑顔で撮った写真を見せてくれた。

第六節 直前に唯一の役割をもつメンバーの欠場決定からの対処

第一項 対応の実際

ここでは、Xリーグのチアリーダー経験が希薄なメンバーが半数以上での、急なフォーメーションの変更が必要となったケースを示す。これは2021年9月12日における欠員の対応である。10(9)→8人へ、キャプテンやバイスキャプテンを中心に振りを変更してフォーメーションを組み直した。

時系列	対応内容
9月3日	Yが濃厚接触者となり欠場が決定からフォーメーションを変更。3回の練習でハーフタイム含む全ての変更のフォーメーションを練習した
9月11日	練習直前にZより、家族の都合で欠席の連絡、練習後の夜に翌日の試合のキャンセルの連絡が全員宛てに入った
20:30	コーチ幹部が翌日のパフォーマンスの変更を検討。他メンバーには変更を伝えるまで待つよう連絡があった
22:00	集合時間の変更、省略するパフォーマンス、フォーメーション変更の共有
9月12日	キックオフ3時間前(8時)に集合、アップエリアでフォーメーションの確認
10:30	フィールド、サイドラインの場ミリ、フォーメーション確認
11:00	キックオフ、ハーフタイム以外のパフォーマンスは花道を含めて行った

表8 時系列でみる欠員対応の実際

2020年～2021年春シーズンまではコロナパンデミックの影響で出場辞退していた為、10名中6人はXリーグでのパフォーマンスの経験が初戦(8月29日)のみのメンバーであった。Y(ルーキー)は基本の2列では

最端であり、ハーフタイムは、振りとフォーメーションが変わっても3回の練習で対応できるメンバー（5年目ベテラン）を配置した。Zはボイスリーダー。Sチームでは1人のみが割り当てられる役割。当日はボイスリーダーをしていたコーチが代わりにMCを行った。当時コロナ禍でボイスリーダー以外の声出しは協会から禁止されていた為、ボイスリーダーは応援における重要なポジションであった。

第二項 幹部の考える優先順位

筆者「Zさんが休んだ時の対応のことを、具体的にどんな事をやったとか、どう思ったとか教えてください」

D「とりあえず、感情がなかった。とにかく目の前のことをやろう、と。7時半から夜の9時ぐらいからとりあえず感っていうか…Z抜きでどうするってなって、とりあえずハーフはできないってなった。サイドラインもどんどん削ってって、できないものはボイスで、ボイスは裏から(コーチが)やると決めて、フォーメどうするかってなった。全部全部323とかだけで、電話会議で私が書き換えやつ送ったね。明日これ踊ってくださいって言われてできる人がみんなだったら、穴が空いてもいいし、1人欠員が出て支障ない。(中略)だからうちは基本サイドラインとかも抜けは無しだから。フォーメもおかしくなっちゃうし、基本は全部見た目重視かも。ハーフもだから見た目重視で、ちょっと変えるだけでできることだったらやるけどそれでクオリティが落ちるんだったらやらない。」

E「私がルーキーの時は結構仕事や怪我とかで抜ける人多かったけど、全部全部全部埋めてた。なんか抜けは基本なしでも1回フォーメ替えてロールとか結構あって、昔のXだったから、もう一回覚えてこいとか、振りが変わったら文句言うとか。なんかもう1日で覚えられることが当たり前だって感じだったから、何かかは振りが変わったかもっていうのが結構あった。X1は抜けないところが多いよね。ずっと立ってるし」

D「多分見た目だと思う。そう、チアだし、チームの応援する人たちだから、ふさわしいようにしなきゃいけないんだと思う。そこが保てるかの判断だと思う。」

筆者「去年はコロナで出られなくなったメンバーは、たまたま端の2人だったから成り立ったけど、スペルアウトとかは諦めましたよね。」

D「あとは、ちょっとあれだけど臨機応変に対応できるその変わらなきゃいけない人が、変えられる人間かどうかの判断もする。」

筆者「やっぱり、穴をあけるっていうのは前提にないってことですよ」

E「Xはないと思う。でも、練習生に一度、東京ドームのハーフ踊らせたことある。一人怪我で。」

会話の中からは、「見た目」を判断基準に穴抜きを埋める事考慮してきた事が考えられる。また「Xは」というフレーズも何度か出てきており、チームというよりは、Xリーグのチアリーダーとしての認識としては欠員を考慮していなかったことも理解できた。

次節では、魅力の一つである「全員参加」を維持した状態で交代でのパフォーマンスが行えた事例についてみていきたい。

第七節 DREAM BOWL2023 の実際

第一項 パフォーマンスの実際

2023年に行われたDREAM BOWL(1月22日)でもX1のチアリーダーがパフォーマンスを行った。全12

チームを2つのグループに分け、奇数 Q、偶数 Q で出演時間を絞り、オープニングパフォーマンスとハーフタイムショーは全員で行う体制をとった。

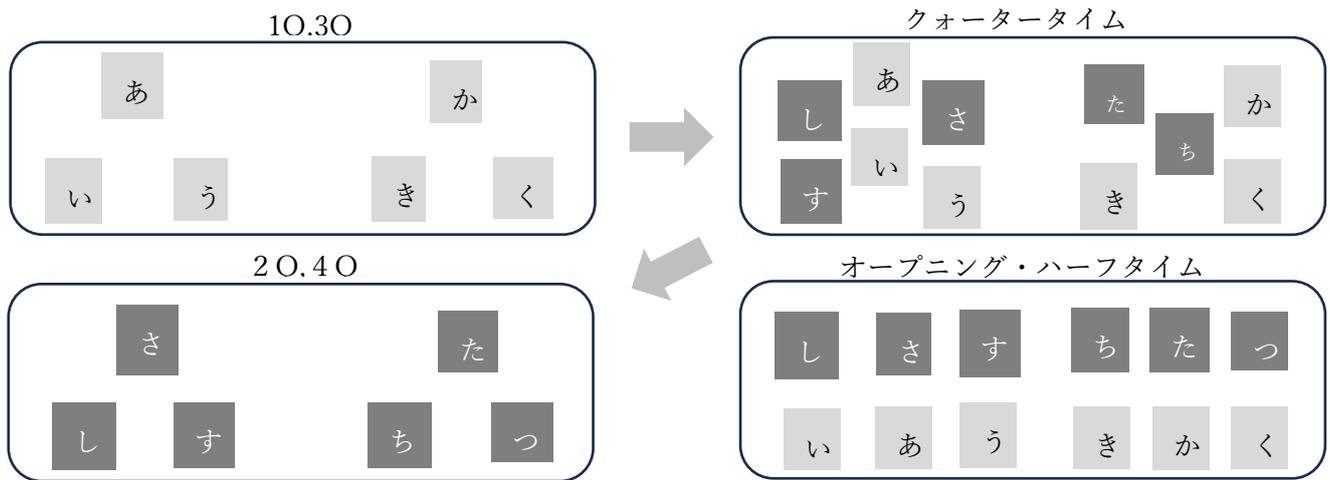


図 2 DREAM BOWL2023 のフォーメーションの実際

第二項 DREAM BOWL でのパフォーマンスをレギュラーシーズンに活かす利点

このイベントではチーム単位でチアリーダーの入れ替えを行ったが、「寒さ」と「準備期間」を考慮した手法であり、出演時間以外の時間は暖をとり、パフォーマンスは各チームの既存の演技を共通の音楽に合わせて行ったことで準備期間の短さをカバーした。

オープニングパフォーマンスやハーフタイムショー自体は1~3分程度のパフォーマンスであるが、サイドラインでのパフォーマンスは1Qあたり20~30分、そしてハーフタイム以外の1~2Q、3~4Q、つまり約1時間は常時サイドラインに立ち続けるのが基本のスタイルとなっており、不規則に始まるパフォーマンスを突如離脱することの困難さは明確である。更に2~3分のハーフタイムショーを行うことによる体力の消耗、屋外という環境から、更衣室やお手洗いが遠いという施設も少なくなく、女性が占めるチアリーダーにとって、会場でのセルフマネジメントを行う環境としての難点が多い。

DREAM BOWLのように、オープニングパフォーマンスやハーフタイムショーは全員で出場することができ、サイドラインもQTで交代を行うことで全員が前半後半でも30分ずつパフォーマンスができ、セルフマネジメントを行える時間を確保できるという観点からも、このDREAM BOWLでのパフォーマンスは、「全員参加」を叶えつつ、試合中にセルフマネジメントを行う余裕や交代要員を確保できるという点で、参考になる交代の手法である。

第五章 考察

モチベーションを保つ要素

第一節 「全員出演」が前提であることのモチベーション

インタビューでは、全員出演を魅力と考える言葉は全員から聞き取ることができた。Xリーグのチアリーダーは全員出演できることが前提であり、補欠・リザーブの概念は持ち合わせていない事が伺えた。また、それが魅力であるという事的前提には「出演したい」といった、出演自体を強く期待する念望があることもいえる。Gも仕事の両立に悩む時期が長かったが、その悩みも、出演の念望と仕事での自己実現の葛藤であったともいえる。

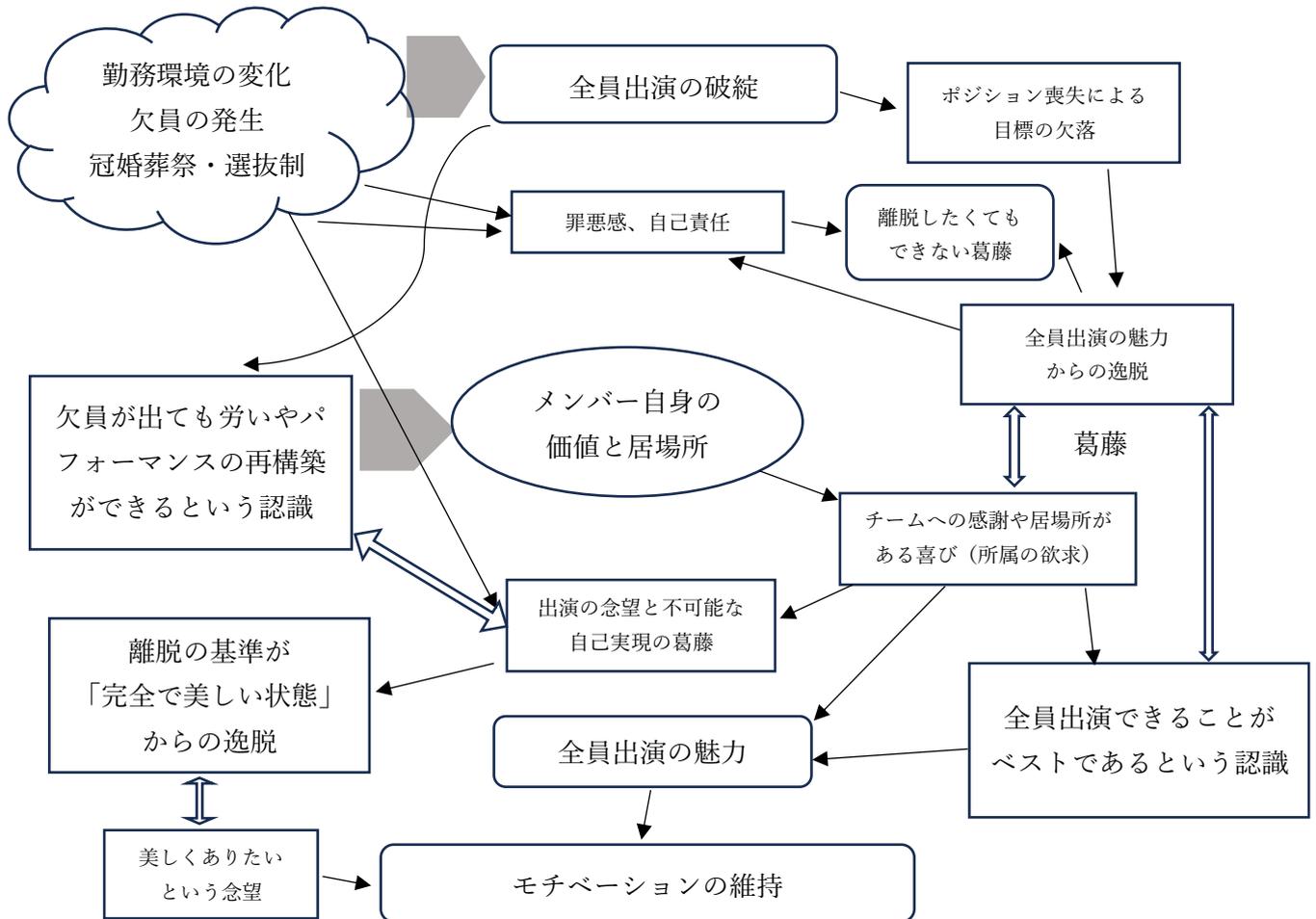


図3 M-GTA法によるチアリーダーのモチベーション維持の結果図

第二節 選抜制でのパフォーマンス

選抜制では当日に誰が出るかわからない状況でのパフォーマンスを前提としている為、出演するという目標の為に自己研鑽が必要となり、切磋琢磨できる環境とも言える。しかし、今回のケースのように選抜されない状況が続いたり、選抜されても叱咤される環境であると全員出演が前提ではなくなり、モチベーションが低下して競

技の継続には繋がらない事は想像できる。実際にBがEチームから1年でSチームに移籍し、次シーズン継続の意向を示しているのは一つの根拠となり得ると考える。

第三節 罪悪感を生み出す認識

結果の中で「申し訳ない」「迷惑」という言葉がメンバーの中から多く聞かれた。しかし一方で、他者が抜ける際に、怒りや戸惑いを語る様子は一切みられず、メンバーを気に掛ける思いや、パフォーマンスを崩すことなくやりきる事に専念したり、このあとどう動くかを考える思考を語りから汲み取れた。結果、全ての試合でパフォーマンスをやり切れており、実際に離脱することをネガティブに捉える必要はなかったとも言える。しかし、月経しかり、20～30代の女性が大半を占めるXリーグチアリーダーにも妊娠の可能性は予想できることであるが、妊娠とチームの価値を天秤にかけなければいけないような罪悪感の問題であると考えられる。

罪悪感、罪悪感喚起状況尺度において、他傷、他者配慮不足、利己的行動、他者への負い目の4つの因子がある(2002、有光)としているが、ここでは他傷における因子はなかったが、他の3つの要因については語りのなかで表出されていた。

大きく分けて、演者として観客への期待に応えられない(他者配慮不足)、パフォーマンスは全員出演が前提の規範の中で自分の判断で穴をあけてしまう(利己的行動)、フォーメーションを変更したりする手間をかける(他者への負い目)事といえる。

しかし、これらの罪悪感が生じる環境があったということがネガティブな要素だけではない。罪悪感が強いと、調和性も高まり(2001、有光)、社会や組織においては必要な要素であるともいえる。Gが「迷惑をかける」気持ちと「拠り所」であることを話す背景にも、これらの要素のバランスが保たれていると考える。

第四節 離脱しても戻れる場所

Aはエピソード②で「優先順位」という言葉を使い、サイドラインでは1試合の中で何度か繰り返して行うパフォーマンスも多い事を含めて離脱するタイミングを考えていた。試合中の体調不良で離脱した事のあるチアリーダーは、筆者も含めてサイドラインでのパフォーマンス中であり、ハーフタイムや4Qには必ず全員が出演できている状態に戻っている。競技によっては、一度補欠が出場すればそのまま出場が叶わない事も多いが、応援チア、少なくともXリーグのチアリーダーにおいては「試合中の復帰」が可能であることがわかった。むしろ復帰を前提として、試合の最後までパフォーマンスのレベルを維持したまま応援をリードしていくために、チアリーダーは離脱することを「手段」としていたと考える。そこには未だ罪悪感を抱くことは事実であるが、DやEのネガティブな感情や、BやC、Fが他のメンバーがネガティブに捉えていない事を考慮すると、そこまでに築く人間関係や本人の姿勢も重要であることが示唆される。

パフォーマンスを維持する要素

第五節 欠員が出てもパフォーマンスは成立する

インタビューを受けて、筆者が知る以上に欠員がいる中でパフォーマンスを行った事例はあることが分かった。但し、これはあくまでも「全員出演」が前提であり、その後の個人やチームのモチベーションは、そこまでに築いてきた人間関係が重要であると考えられる。インタビュー外で、DとEは「欠員が出ない事は前提なんだけ

ど、このケースはそれまでの人間関係があって…正直、関係が良かったらこんな風に思わなかった」と話しており、チームの人間関係が欠員時にメンバーのモチベーションに影響することは否定できない。反対に、欠員が出た際に人間関係に影響を及ぼした可能性は、今回のインタビューからは抽出されていない。メンバーに出演困難者がいても実際にパフォーマンスができていますが、その罪悪感を生み出すのは「メンバー全員が揃わないと成り立たないパフォーマンスがある」ということも言え、全員参加はチアリーダーの魅力であると共に、出演困難の際はチアリーダーの罪悪感に繋がる可能性がある。

妊娠したチアリーダーの代役を引き受けたCも、妊婦さん個人の為の行動ではなかった。チームとしての今後を見据えた、Cができる貢献であったと考える。その根本的な認識の中に、全員出演が完璧であり、それを逸脱することが悪だと考える部分が多く、Cのいう責任感が代役という行動となって表れたのだろう。

実際に試合中に離脱したチアリーダーにリザーブという提案をしてみると「あると気持ち的に楽である」とポジティブに捉えていたと同時に、全員参加に魅力を感じているので、補欠などの「必要がなければ出演しない」立場のメンバーを置くことには難儀を示している。チアリーダーに必要なのは補欠ではなく、休みたい時に休める環境であると考えている。

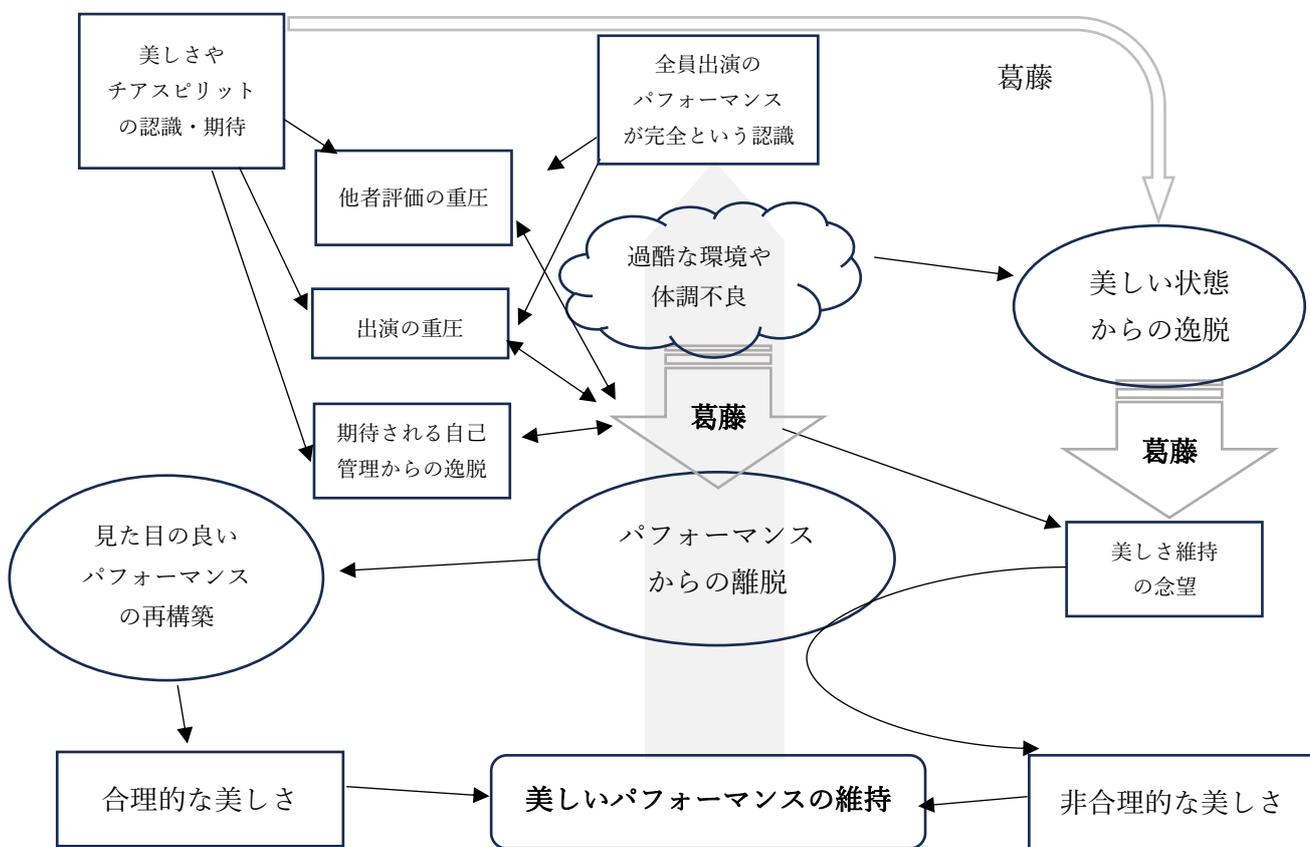


図4 M-GTA法によるパフォーマンス維持の結果図

第六節 チアリーダーが認識する「美しさ」

インタビューの中には「見た目」や「美しい」というワードが何度か出現した。チアリーダーの中にある美しさとはどういったものなのか。美しいという状態は、環境や個人によって想像するものや解釈するものが違

い、定義することは困難ではある。その中で橋本は、「美しい」とは、「合理的な出来上がりかたをしているものを見たり聴いたりしたときに生まれる感動」と述べられ、著書ではスポーツで無駄のない均整のとれたものを美しさの1つとして表現している。

Dが言うような「見た目」は、フォーメーションを含むパフォーマンスにおいては、この均整のとれた美という表現で説明ができるだろう。しかし、Bが言うような美しさはこれで表現できない。著書では「非合理的・感情的美しさ」をもう一つの美しさとしている。これは風景や文化に対する美しさを意味し、チアリーダーの表情や感情・情景等に起因する美しさとしてとらえる事ができるが、元気で明るく健康的な状態、不自然や無理ではない状態、すなわち「チアスピリット」が表現できている状態とも考えられる。

はじめに提示したチアスピリットの認識はチアリーダーにおける「美しさ」を表す精神、言葉であることが考えられる。論文の限界として、チアリーダーの一般的な美しさの定義やチアスピリットの定義づけはしない。

第七節 交代制導入における仮説

DREAM BOWL では、団体単位でパフォーマンスを行ったが、実際のサイドラインパフォーマンスは約3×12m程度の枠の中で10名前後によって行う為、単純に考えれば12名のチームであれば6名毎の入れ替えがあっても極端な空白は感じられない。常にサイドラインに立っているXリーグチアリーダーでも、QTを利用したメンバーチェンジや総メンバーでのパフォーマンスタイムを獲得する時間としても利用することができたことから、試合中にパフォーマンスを継続して行える事が期待できる。

この手法を個人単位で考えれば、各チームの試合時パフォーマンスに活かせる可能性はあると考える。しかし、チーム毎でこの手法を適応すると、現時点では人数の問題が懸念される。Xリーグのチアリーダーは出演時間が他リーグと比較しても長く屋外パフォーマンスの為、よりセルフマネジメントを要するのに対し、体調不良や怪我等で欠員が出ることは想定されていないのが現状であるが、SチームからBリーグに移籍したチアリーダーも「圧倒的に出演時間も短くて室内なので体力的な余裕がある」と話していた。

DREAM BOWL でX1リーグ全体で交代制のパフォーマンスを行えた実績と、アメフトの競技特性や契約の観点から、1試合の中での交代制を前提としてパフォーマンスを組めば、多少の欠員が当日に発生しても「見栄え」を落とさず、「申し訳ない」という気持ちを持つ事なく、心身が安定したパフォーマンスを行う事ができるのではないかと予想する。「寒さ」については、日本の暑熱環境下でも同じように交代制によるメリットがあると考えられるが、「準備期間」については、レギュラーシーズンに向けてパフォーマンスの種類を揃えていく事が課題であり、あくまでDREAM BOWL2023での交代制はチーム単位の交代であり、レギュラーシーズンに導入できるかは各チームのパフォーマンス内容やレベル、人数によるかもしれない。

様々なリザーブの置き方がある中で、Xリーグのチアリーダーは競技者ではなく、全員出場を魅力に感じている。しかし、試合時間の長さ、屋外でのパフォーマンスは他チアリーダー以上にセルフマネジメントの能力を求められる傾向にあり、それがチアリーダーの「苦」を生じていることが示唆される。天候や施設環境を想定し、試合時間の長さを利用してDREAM BOWLのような交代制を導入することで、全員参加という魅力を保ちつつ、他の方法を取り入れるよりも個人の罪悪感の改善に繋がっていくことを期待する。

第六章 結論

1. チアリーダーのモチベーションを維持する要素として全員出演が前提である

チアリーダーが試合を通してモチベーションを維持する為の最大の要素として、全員が出演できることが前提にあり、メンバー自身出演したいといった念望を持っている事が挙げられた。この二つの要素が同時に満たされる状況が、チアリーダーのモチベーションを維持・向上させていく上での重要な前提であると言える。

2. チアリーダーのパフォーマンスを維持する為に、メンバーの居場所と美しさを保つ心理的要素がある

チアリーダーの魅力の一つには、「全員出演」という要素がある事がわかったが、それに付随して、出演困難となったタイミングでのパフォーマンスからの離脱に「罪悪感」を感じるメンバーがいる。全員参加が喜びであることが、パフォーマンスからの離脱により他メンバーを含めてパフォーマンスに制限がかかること、また、離脱した本人自身出演したいという念望から逸脱する事が出演から離脱する際の難点となる部分でもある。

しかし、パフォーマンスから離脱したとしても、元のパフォーマンスに戻れる環境があることで、出演困難となった際もモチベーションを維持し、離脱する必要があると判断した際にその行動に移しやすくなることも言える。また、メンバーが離脱した際の対応は、美しさを意識することで単一ではなく、対称を意識した合理的美しさや、チアスピリットを意識した非合理的美しさを意識して再構成することで対応が可能である。Xリーグのチアリーダーの「全員出演」の魅力を維持したまま、出演困難となってもパフォーマンスを保つには、美しさを意識したパフォーマンスの再構築を図ると共に、離脱後にも各メンバーの居場所を維持することが必要である。

Sチームが全員出演を前提に、パフォーマンスやモチベーションを維持できていたのは、これらの要素を持ち合わせていたからであるといえる。

参考資料

- 1) 一般社団法人 日本チアダンス協会 | JCDA <https://jcda.jp/>
- 2) 大谷尚. (2008). 4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. 教育科学, 54(2), 27-44.
- 3) 大谷尚. (2017). 質的研究とは何か. YAKUGAKU ZASSHI, 137(6), 653-658.
- 4) 木下康仁. (2016). M-GTA の基本特性と分析方法: 質的研究の可能性を確認する. 医療看護研究= Journal of health care and nursing, 13(1), 1-11.
- 5) 有光興記. (2001). 罪悪感, 羞恥心と性格特性の関係. 性格心理学研究, 9(2), 71-86.
- 6) 有光興記. (2002). 日本人青年の罪悪感喚起状況の構造. 心理学研究, 73(2), 148-156.
- 7) 土肥美智子. (2017). 女性アスリートの特徴と課題. 女性心身医学, 22(2), 141-144.
- 8) 煙山千尋, & 尼崎光洋. (2013). 女性スポーツ選手のストレスサーとストレス反応, Female Athlete Triad との関連. ストレス科学研究, 28, 26-34.
- 9) アーサー・クラインマン. (1996). 病いの語り: 慢性の病いをめぐる臨床人類学. 江口 重幸, 上野 豪志, 五木田 紳訳, 東京: 誠信書房.
- 10) 申恩真. (2018). 女性アスリートの痛みをめぐるエスノグラフィー—サッカー選手の月経をめぐる対応から. スポーツとジェンダー研究, 16, 6-19.
- 11) 橋本治. (2002). 人はなぜ「美しい」がわかるのか: ちくま新書.
- 12) 森谷健太, 中沢峻, & 佐々木秀之. (2021). 大学生の災害ボランティアへの参加動機の質的分析と参加推進の方策に関する一考察. 日本教育工学会論文誌, 44(Suppl.), 13-16.
- 13) 田中孝治, 水島和憲, 仲林清, & 池田満. (2017). 営業実習の週報から見る新入社員の学び方の学びと指導員によるその支援—質的データ分析手法 SCAT を用いた一事例分析. 日本教育工学会論文誌, 41(1), 1-12.
- 14) Xリーグ 公式サイト. <https://xleague.jp/>
- 15) 日本スポーツ振興センターほか (2013). 女性アスリートのためのコンディショニングブック.

謝辞

本研究の遂行にあたり、指導教官として終始多大なご指導を賜った、中村先生に深謝致します。同学科教授平田教授、並びに岡教授、奥田先生には、本論文の作成にあたり、副査として適切なお助言を賜りました。ここに深謝の意を表します。また、多数の資料を提供頂き、本研究とチアリーダーとしての活動をいつも支援していただいたSチームのチアリーダーとOGスタッフに感謝いたします。最後に、中村研究室の皆様には、本研究の遂行にあたり多大なご助言、ご協力頂きました。ここに感謝の意を表します。